

【令和3年度 活動報告】

■地域子ども交流事業「ぼくのまち、わたしのまちを紹介します」事業

○好きっちゃ槻田!宝さがし	1
○西門司たんけんたい!	2~5
○好きっちゃ葛原!	6~9
○好きっちゃ応援団の輪拡大推進事業	
・門司区家庭教育学級リーダー等研修会(市民センター)	10
・門司区家庭教育学級リーダー等研修会(PTA)	11
・九州共立大学『共生社会を生きる』(前期講座)	12
・Green Gift~地球元気プログラム:クイズで考えるSDGs	13
・九州共立大学『共生社会を生きる』(後期講座)	14
・北九州社会教育・生涯学習研修会20周年記念講演会	15
・好きっちゃ研修会	16

■防災まちづくり事業

○地区 Bousai 会議運営支援事業	
・枝光第二区 Bousai 会議(第1~3回)	17~22
○あそぼうさい	
・青葉市民センター子ども講座	23
・八枝市民センター子ども講座	24
・徳力児童館	25
・志井市民センター子ども講座	26
・長尾市民センター「未来の種」	27
・長行市民センター子ども講座	28
・東朽網市民センター子ども講座	29
○地域を見つめる防災まちづくり講座	
・うきはベース「大学生災害ボランティア」オンライン講座	30
・午前10時のサロンあしはら	31
・富野小学校・富野中学校合同家庭教育学級	32
・親子ふれあいルームさざん乳幼児世帯向け講座	33
・男女共同参画フォーラム in 新門司地区	34
・男女共同参画フォーラム in 大里地区	35
・福岡大学法学部 九州地方政策	36
・若園小学校家庭教育学級	37
・葛原小学校 家庭教育学級	38
・白野江まちづくり協議会「リアル HUG」	39

□各メディアでの掲載・出演	40
----------------------	-----------

講座・イベント:36回 活動対象:1,446人 参加メンバー:94人





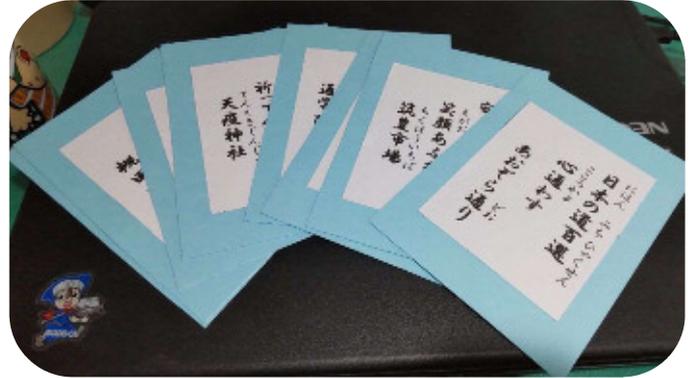
たからさがし！

～ 好きっちゃん 槻田 ～



令和3年4月18日（日）13:00～16:20 参加者15人 @八幡東区槻田校区

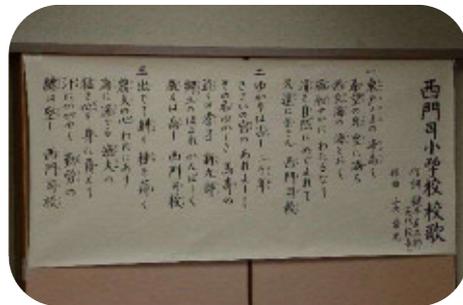
宝探しとカルタが融合した新プログラム、メンバー家族で、試行的に実施してみました！
まだまだ検討が必要なことは多いですが、フィールドワークの可能性を感じました。



『未来の種講座』じーもクラブ 第1回 西門司たんけんたい！



- 1 日時 令和3年8月5日（木）10：00～12：00
- 2 場所 西門司市民センター
- 3 参加者 小学生15人、地域の皆さま20人



コロナ禍でも元気にスタートした『西門司たんけんたい』です！！
これから5回シリーズで、このまち西門司のことを詳しく知って、地域愛の育みへと繋げていきます！
このまちのことをどうやって調べていこう・・・ヒントは小学校の校歌にあります！！
ずっと歌い継がれている校歌から、このまちの魅力を探っていきます！
小学校の、大、大、大先輩のお二人から、昔のこのまちについて語っていただきました。
今と昔の同じところ、違うところ・・・子ども達も興味津々で聞いてくれました！



校歌の中にもその地名がある馬寄。伝統の芸能、『馬寄踊り』を、保存会の皆さんに披露いただきました！
馬寄踊りの発祥の由来や、踊り・語り継がれている詳細について、紙芝居で教えてくださいました。
地形や地名と繋がった、このまちの誇りについて教わりました。
保存会の方からも校歌の中にある『郷土のほめれ』を大切にしてほしいというお話がありました。
温故知新、昔から現在までが繋がっていく講座となりました。



そのまちのことは、そのまちの人に教わろう！！皆さん、「このまちの子ども達のため」「このまちの子ども達に、地域への愛着を」という気持ちで賛同して下さったと思います。
過去から現在までの自分のまちの『ほめれ』を感じる講座となりました！！

『未来の種講座』じーもクラブ 第2回 西門司たんけんたい！



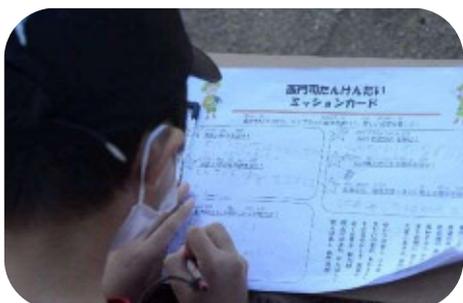
- 1 日時 令和3年10月9日（土）10：00～13：00
- 2 場所 西門司市民センター、西門司校区一円
- 3 参加者 小学生11人

『郷土のほまれ』探しのたんけんたいに出発！！

新型コロナの緊急事態宣言もあり、2か月ぶりの講座。ふり返りのムービーとけんちゃんたちのお話を。子ども達は『たんけんたいマップ』と『ミッションカード』を手にそれぞれのスポットを目指しました。

行った先々で、お話を聞き、熱心にメモしていた姿が印象的でした。

何度も来たことがある場所でも、少し違う風に見えたかな？元気いっぱいなたんけんたいでした！！



ただの屋外企画とせず、クイズやミッションを交えた、楽しいたんけん要素となりました。実際に歩いて行って、その場で、見て・聞いて。体験型の活動に、子ども達の見る目線や想いが育まれていったように感じました。このまちのことをもっともっと好きになってくれたと思います！！

『未来の種講座』じーもクラブ 第3回 西門司たんけんたい



- 1 日時 令和3年10月16日（土）10：00～15：00
- 2 場所 西門司市民センター、門司港～関門トンネル人道～壇ノ浦
- 3 参加者 小学生11人

3回目となる今回のテーマは「飛び出せ！」。前回までに西門司校区の『郷土のほまれ』を見つけた子ども達は、いよいよ校区を飛び出し関門全域へと学びを広げます！！

午前中は「ジオ&バイオ研究会」の杉野先生と、「日本カブトガニを守る会」の高橋先生による勉強会。関門海峡はどうやって出来たの！？その海峡の向こうにある曾根干潟とカブトガニの生体とは！？時間を飛び越えたスケールの大きい話に、子ども達はぐいぐい引き込まれていきます。勉強会の後は、場所を調理室に移し、地域の方が作ってくださったランチをいただきました。



そして午後。市民センターに現れたのは、なんと西鉄の大型バス！遠足気分の子も達はさっそうとバスに乗り込み「さあ、出発進行！」。車窓に流れる校区の景色に子ども達は釘付けです。「見慣れた景色も、ちょっと視点を変えると違う風に見えるんだよ」と言わんばかりにバスは進みます。



バスが向かった先は門司港。といってもレトロな観光地ではありません。そこは戦時中、何百万という兵隊が戦地に向かうために通った場所。車中で聞いた戦争絵本「白いナス」の朗読を思い出しながら、子ども達は戦時の話をメモに取ります。そして対岸は下関へ。源平合戦の旗が「赤白帽子」の由来と聞いて子ども達はビックリ！「どっちが勝ったん！」「負けたら、どうなったん？」。絶え間なく続く質問＝好奇心こそが、きっと「未来の種」を花咲かせるための栄養源になることでしょう！



スタッフであるべき「好きっちゃん」メンバも釘付けになった今回の講座。時代を飛び越え、校区を飛び出すことで、また新しい『郷土のほまれ』を見つけることが出来ました。

『未来の種講座』じーもクラブ 第4回 西門司たんけんたい！



- 1 日時 令和3年10月23日（土）10：00～12：00
- 2 場所 西門司市民センター
- 3 参加者 小学生15人、地域の皆さん25人

『西門司たんけんたい』ファイナル！

第1回から重ねてきた『たんけんたい』の記録について、センター職員さんのムービーで振り返りました。自分たちが歌っている校歌をたんけんたいのテーマにして、ひとつずつその場所に行き体感してきました。宿題となっていた「校区の誉まれ」の発表について、上手に絵に書いてまとめてきてくれました。欠席となった子はビデオメッセージにして発表してくれました！



後半には、伝統の『馬寄踊り』を見せて、教えてもらった後に、みんなで一緒に踊りました！子ども達に聞くと踊りのポイントやコツも教えてくれました。最後には、校歌を全員で歌いました。子ども達はもちろん、このまちで育ってきた大先輩たちの胸にも残った発表会となりました。市民センターの皆さん手作りの修了証がそれぞれ交付され、たんけんたいの修了となりました。

こうした活動を通じて、子ども達が自分のまちに目を向け、また大人たちが子ども達へと温かな想いをもって対応してくださりました。こうした人の繋がりが一番の地域の誉まれなのかもしれません。とても素晴らしい一連の講座となりました！



市民センター作成の
活動記録ムービー

好きっちゃ葛原2021（1日目） 「寺迫口はこの寺への入口か？」



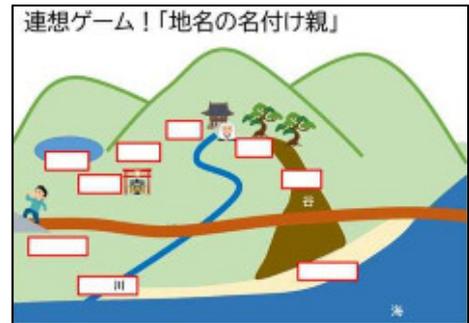
- 1 日時 令和3年10月30日（土）10：00～12：00
- 2 場所 葛原市民センター
- 3 参加者 9名

2021年度の「好きっちゃ葛原」は全4回講座。第1日目は「地名から地域を考える」がテーマです。葛原には「寺迫口」というバス停がありますが、どんなに探しても、付近にお寺はありません。昔、お寺があったのだろうか……。ふとした素朴な疑問から、地名の由来と歴史を考える謎解きが始まります。

ところで、地名ってどうやって出来るのだろう？本題に入る前に、オリジナルのアイスブレイク「地名の名付け親」でスタート。

1枚のスライドを見てもらい、空欄の場所に、参加者の方々に自由に地名を名付けてもらいます。松が2本あるから二本松、松山、松谷など同じ場所でも、どんどん異なる地名が出てくるから面白い。地名が自然地形に由来することを、ゲームを通して考えます。

そして種明かし・・・実はこの地形、葛原の昔の姿なのです！！



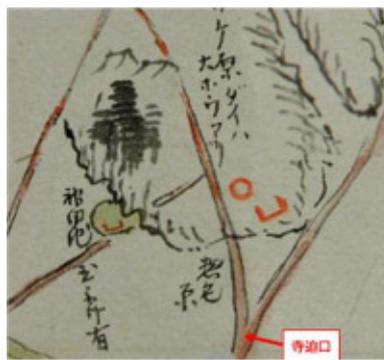
え？葛原に海があったの？古地図を見ると、たしかに「浜」と付いた地名がたくさん。谷のところには「牛ヶ迫」という地名が。「迫」って何だろう？「寺迫口」という地名にも「迫」がありますね。



古地図を見ると、葛原には「迫」が付く地名が多いです。その場所に共通するのは、山に挟まれた場所ということ。迫とは山間の谷を意味するようです。「では、寺迫はどこにあるのでしょうか？」、地域の歴史に詳しい松本克彦氏にお尋ねすると、地図を示しながら・・・

「この辺りと聞いてます。お寺があったそうですが、室町時代の戦で燃えてしまいました。埋蔵金が眠っているという伝説もありますよ」

こんな山の中にお寺が！そして、まさかの埋蔵金伝説に驚きの声。



寺迫の謎が解けたところで、歴史の話へと続きます。この寺迫地域には長州戦争にまつわる悲しい物語が伝えられています。戦のとき、村の人が小倉藩を応援しました。これに腹を立てた長州藩が村人を捕らえ殺害したというのです。「十八人塚」はその慰霊碑だとか。長州戦争の様子を、当時の地図と現在の航空写真を見比べながら考えます。すると突然、会場から声があがりました。

「長州勢が中津街道沿いの松の木を切って持って帰った」という話を聞いたことがある！というのです。誰しもが初めて聞く話にびっくり！いつも新しい発見がある「好きっちゃ葛原」。次回に続きます。

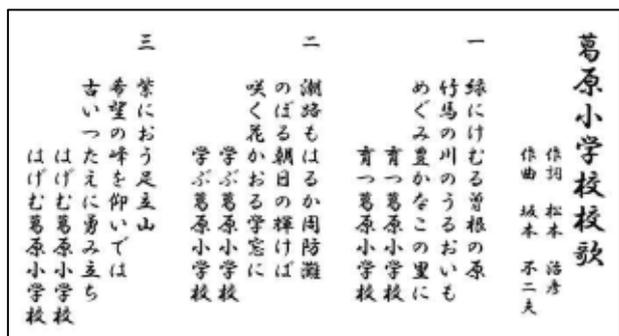
今回は比較的少人数での開催となりましたが、参加された方々の知識が豊富で、非常に勉強になりました。また、若い世代の方から「好きっちゃ葛原」へ参画したいと申し出があり、嬉しい限りの第1日目。大成功です。

好きっちゃ葛原2021（2日目） 「謎解き！校歌に隠された校区の宝」



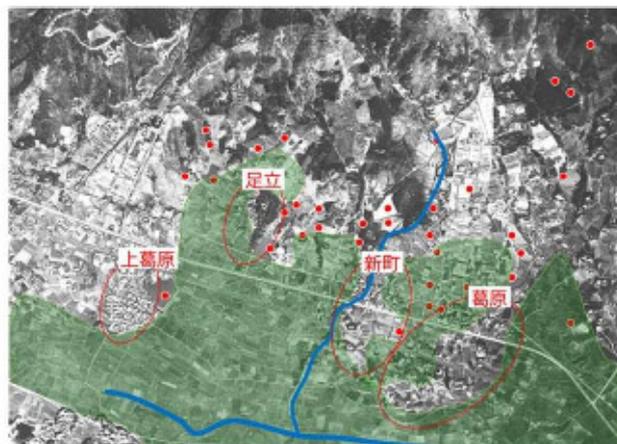
- 1 日時 令和3年11月27日（土）10：00～12：00
- 2 場所 葛原市民センター
- 3 参加者 15名

「好きっちゃ葛原2021」2日目のテーマは「謎解き！校歌に隠された校区の宝」。葛原小の校歌は、北九州市内で多くの校歌を手がけた松本治彦氏によるもの。実はこの方、葛原の出身なのです。それゆえか、母校の校歌への思い入れは深く、その反面、内容が抽象的で意味を解するのが難しいところもあります。今回は、葛原小PTAの方々も参加して、普段、子供たちが歌っている校歌の意味を考えます。



ではさっそく・・・1番から。「緑にけむる曾根の原」って何だろう？校歌が作られた昭和27年の航空写真をスクリーンに映します。田んぼばかり！参加者の大半が、新しく葛原に来られた方とあって、驚きの声が上がります。

ここで、葛原に溜池が多い理由や、これを作った先達たちの想いを皆で考えます。



続いて第2番「潮路もはるか周防灘」。潮路というのは航路のこと。竹馬川流域は昔、海でした。「ちくま」は「舟」つきば」が訛ったものですから、葛原と周防灘は直接つながっていたわけです。

ここでハザードマップを映します。興味深いのは神社の位置。高潮警戒地域の境界部分に古い神社が点在します。綿津見神社のワタとは「海」のこと。白髭神社の神様は、神話の時代に舟に乗ってやって来たそう。厳島神社は航海の神様。さて、これが偶然か必然か、信じるのは・・・あなた次第！（笑）



そして最後の第3番「紫におう足立山」から続く「古い伝え」を考えます。足立山は昔「紫山」とも呼ばれてました。紫には「貴い」という意味がありますが、やはり、和気清麻呂の足立伝説と関係があるのでしょうか。講座に参加されていた葛原八幡神社の福江宮司にお話を伺いました。

「清麻呂さんは、なぜ宇佐から、わざわざ北九州まで温泉を探しに来たのでしょうか？私だったら・・・、別府温泉に行きますが」

ユーモアある話に会場は笑いの渦に包まれます。

話は続きます。「清麻呂さんが、葛原に来たのは理由があったはず。そこに葛原の歴史を紐解く鍵があると思うのです」。長年、清麻呂伝説を研究されてきた宮司のお話に、とても考えさせられました。

校歌って奥が深い！間もなく葛原小は150周年を迎えます。子ども達に、こんな素敵な校歌の意味を伝えるにはどうしたらよいだろうか・・・。これからがスタートです！

今回はPTAを通して若い世代の方がたくさん参加下さいました。1回目に引き続き、今回も「参加します！」と新たに申し出てくれた方も。「好きっちゃ葛原」と「葛原小PTA」の協働のきっかけが出来たのも一番の成果です。

好きっちゃ葛原2021（3日目） 「リハビリ記念館を訪ねてみよう」



- 1 日時 令和3年12月18日（土）10：00～12：00
- 2 場所 リハビリ記念館（九州栄養福祉大学）
- 3 参加者 20名

「好きっちゃ葛原2021」3日目は、葛原高松にあるリハビリ記念館を訪問しました。市民センターに集合して、（最近まで）「労災通り」と呼ばれていた道を歩くこと15分。

「みなさん、お寒い中、ようこそお越しくださいました！」

出迎えていただいたのはリハビリ記念館館長の橋元教授。「どうぞ中へ、中へ」熱烈な歓迎ぶりに参加者の心も温まります。さっそく教室に入り、橋元教授のお話が始まります。



「これまで葛原地域の方に、労災病院やリハビリ発祥の歴史をお話する機会はありませんでした。だから、今日はとても嬉しい。説明スライドも、今日は特別編ですよ」

リハビリの歴史、それがなぜこの地に誕生したのか。八幡の大空襲で被災した製鉄病院の疎開療養所が葛原だったこと。地元の人も知らなかった労災病院の誕生秘話や、リハビリという医療がこの地で誕生した経緯を熱く語られました。そんな中・・・

「好きっちゃ北九州の久保田さん！」と、突然の指名。

「先月のセンター便りの記事、とても面白い視点がありました。労災病院が開設されたことで、農村だった葛原に雇用が生まれたというところ。当時ここに勤務された方の大半が葛原の方でした。労災病院を支えてくれたのは葛原の方々です。だからこそ、葛原と我々（九州栄養福祉大学）は協働していきたい。今日はそのキッカケになりました」。願ってもない言葉にありがたい限り。

「実は私の父（松本治彦氏）もココで働いてました」

と、語り始めたのは松本克彦氏。葛原小校歌の作者として前回講座で取り上げた松本治彦氏は、なんとここで教鞭をとっていたそう。そして・・・、橋元教授から驚きの言葉。

「私、その松本治彦先生の教え子です」と。

参加者からも「おー」という声が上がると、話は完全に脱線して、松本治彦氏の思い出話に転じます。「とても優しい先生でした。居眠りをしている学生がいたら、彼も疲れてるのだから、そっとしておいてあげなさいと、言うようなお人柄。だから慕われてました。葛原の歴史も教えていただきました」と。早世した松本治彦氏を知る地域の方は少なく、とても貴重なお話をいただきました。

リハビリ発祥の歴史を訪ねるつもりが、思わぬ「出会い」と「奇跡」に驚かされた今回の講座。葛原地域の歴史研究と地域との協働について、これからは是非一緒に考えて行きましょと、最後、握手を交わして解散しました。



令和3年度の九州栄養福祉大学の「研究紀要」に訪問記を掲載いただきました。葛原地域にとっては、リハビリ記念館（九州栄養福祉大学）との協働が今後のミッション。その方向性を確認できたことが、今回一番の成果だったかもしれません。

好きっちゃ葛原2021 「妙見古道を歩いてみよう」



- 1 日時 令和4年3月12日（土）9：00～12：00
- 2 場所 「葛原八幡神社」～「妙見古道」～「一の鳥居」
- 3 参加者 48名（葛原地域の方および小倉北区/八幡西区の方。小学生～80代）

「好きっちゃ葛原2021」最終会は山登り。葛原八幡神社から足立山妙見上宮に続く「妙見古道」を歩きます。といっても、ただの山登りではありません。福岡県山岳連盟の方々と「好きっちゃ葛原」の協働で、安全登山の技術を学びながら、地域の歴史を体感しよう！という2本立ての構成です。

出発地に集まった人は48名。歴史が好き！山登りが好き！運動不足を解消したい！など参加者の動機や年代も様々。さっそく地域の達人、松本克彦氏から古道ついてお話をいただきます。



ユーモラスに古道の解説をする松本克彦氏

そして登山の説明へ。今回は3班に分かれて、それぞれに山岳連盟のスタッフがつかまいます。「あそぼうさい」でお馴染みの「バースデーで並べ」を応用した、出発前の点呼でアイズブレイク。入念に準備運動をしていざ出発！！

登山口近くの広場に着いた一行は、安全登山のための歩行技術を学びます。指導にあたるのは、福岡県山岳連盟の花田武士氏。転ばない、疲れない歩き方のコツとヒミツを体で学びます。山登りのコツを得た一行は、いよいよ山へ入ります。



歩き方のコツを指導をする花田武士氏



あともう少し！励まし合いながら進みます



ゴールでは皆で拍手！そして記念写真

歩くこと約30分、目的地である「一の鳥居」に到着！！森厳な杉林に佇む白亜の鳥居は神秘的で、頑張っただけの達成感もひとしおです。

ここで休憩をとりながら、鳥居が作られた時代背景、災害や飢饉の歴史に触れます。この鳥居に当時人々は何を願ったのだろうか・・・。

今回の登山はここまで。「この先を行きたい方は、後日、改めて参りましょう！」と呼びかけたところ、本当に申し出がありました。「葛原の歴史に興味が出た」という言葉がまた嬉しかった。

回を重ねるごとに、新しい仲間との出会いがある「好きっちゃ葛原」。次なる出会いが楽しみです！



葛原市民センターの事業としては、今年度、最大規模のイベントになりました。歴史が好きな方だけではなく、全く異なる視座からアプローチすることで、参加者の多様化を図ることが出来ました。そこに不可欠なのは、性質を異にする団体との協働。その成果を身を持って感じました。

門司区家庭教育学級リーダー等研修会 PTA対象『家庭教育学級への臨み方』



- 1 日時 令和3年5月31日(水) 12:00~撮影
- 2 場所 門司区役所でZOOMとビデオカメラにて撮影
- 3 参加者 公開Youtubeの視聴(門司区内小中学校のPTA)



<https://www.youtube.com/watch?v=quUABkatNec>

緊急事態宣言中で、市民センターが閉館中ということもあり、この研修の本来の対象であるPTAについてはYoutubeに講義動画(約20分)をアップし、それを視聴していただくこととなりました。保護者たちの学び合いの大切さや意義について、改めて考えなおす機会となりました。PTA内での協働のコツや、共感による企画の作り方についてお話ししました。また、子ども達の教育の「3つの柱」のひとつである『地域教育』について改めて考えました。言葉足らずかもしれませんが、ぜひ動画もご覧ください。

<h3>「教育」とは</h3>	<h3>「地域教育」について考える</h3> <p>地域の中で教える → 地域の中で教えられる</p> <p>郷土愛の育み・・・人が好き、文化が好き、まちが好き</p> <p>自己愛の育み・・・居場所が好き、思い出・生い立ちが好き</p> <p>次のまちや人を育てる人へ</p>	<h3>PTAと地域コミュニティは同じ構図・課題</h3> <ul style="list-style-type: none"> 自治会の未加入・脱退問題 ⇒PTA活動と同じ構図・課題 主体と客体を分けてしまった社会 ⇒『共』たる機能・位置づけの欠落 関わりと繋がり ⇒関わりのきっかけ 	
<h3>PTAのありかた</h3>	<h3>不思議なPTA、残念なPTA</h3>	<h3>不思議なPTA、残念なPTA</h3>	<h3>不思議なPTA、残念なPTA</h3> <p>強制的な活動 → 義務感・負担感</p> <p>実施者の減</p> <ul style="list-style-type: none"> 無理なく、できることを 実施者が減れば、負担も減る 食型(活動)を担うことで主体的に 自分たちの自分たちのための組織 価値も大切だが、楽しさも大切 価値や効果は事後の成果に表現していく
<h3>家庭教育学級(社会教育)とは</h3> <ul style="list-style-type: none"> 講座等を実施する義務? ⇒学ぶ「権利」 強制して企画・受講するもの? ⇒自分たちの、自分たちなりの学び <p>「学ぶ」とは? 「学び」とは? 教わる、体験する、共感する、深め合う・・・</p>	<h3>『共感』が生まれるとき</h3> <p>繋がり → 『共感』 → 『共通項』</p> <p>同じ地域に住み、同世代の子どもを育て 家事、育児、仕事、趣味、興味関心・・・</p>	<h3>家庭教育学級への臨み方</h3> <ul style="list-style-type: none"> 行政の予算で講師を呼べるなんてワッキー! 参加が少人数でも気にしない! 自分たちの「楽しい」を真こう! 講師を呼ぶでの講師だけでなく、イベントや話し合い、ワークショップ、何でもOK! 	<h3>まとめ</h3> <ul style="list-style-type: none"> 共通点の多い保護者どうして共感を作ろう! 共感の時から、どんなことがしたいか考えていきましょう! 自分たちのための家庭教育学級!とにかく楽しんで、「楽しい」を真こう! 共感者をどんどん巻き込んで、地域教育へ!

ひとの繋がりづくりは簡単なようで難しいものです。何かのきっかけや共感がとても重要になります。学校の保護者たちは、「近くに住む同世代の子どもの親」というとても貴重な共通点があります。学校や家庭だけでなく、郷土愛を持ちながら地域で子ども達が育まれたら良いと思います。

門司区家庭教育学級リーダー等研修会 市民センター対象『講座の企画と色付け』



- 1 日時 令和3年5月31日(水) 10:00~11:40
- 2 場所 門司区役所からZOOMでのオンライン講座
- 3 参加者 80人(市民センター館長・職員・コーディネーター・一部PTA)



テーマ
<ul style="list-style-type: none"> ・企画の作り方(起こし方) ⇒種 ・仲間を増やしていくコツ ⇒協働 ・講座をより良いものにする⇒色付け ・色んな場面で役立つテクニックとは!

家庭教育学級の主催者である市民センターの皆さんを対象にした研修。新型コロナに配慮して、オンラインでの講座としました。一方的な講義形式でなく、参加型の研修とするため、各市民センターで数名ずつ参加していることを活かして、遠隔のグループワーク形式にしました。

家庭教育学級は、PTAをはじめ多くの人を巻き込み、参加してもらってこそ開催意義が増していきます。講座の企画の作り方(種)や、協働者を増やしていったり、より主体的に取り組んでいただくためのコツを確認していきました。また、講座をより良いものにする色付け、ひと工夫について確認しました。ところどころ問いにしたり、振り返りで感想をディスカッションしていただくなど、参加型の研修になるように心掛けました。

<p>アイスブレイク!</p> <p>Q: このまちを漢字一文字で表すと?</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民センターごとにディスカッション! ●皆さんで意見を出し合って考えてください。 ●決まったら、紙に大きく書いて見せてください。 ●館長さんはファシリテーターを。 	<p>企画の『種』の作り方</p>	<p>配信・・・聞くだけは5%、話す50%</p>	<p>主体的とは?</p> <p>主体 ↔ 客体 お店 ↔ お客様 主催者 ↔ 参加者 主催者 ↔ 協力者? 主催者 ↔ 参加者 主催者 ↔ 協力者</p>
<p>『主催の関係』にならぬよう言動の配慮</p>	<p>協働者への参画依頼のタイミングは?</p> <ol style="list-style-type: none"> ①企画の段階から ②企画の大概が決まったら ③準備への作業分担時に ④当日の会場や進行等の準備・打合せ ⑤とのあはずり当日来ってもらう 	<p>事前広報と事後広報</p> <p>★参加者を集めるための事前広報!</p> <p>★企画・成果・効果を周知するための事後広報! ⇒ファンや関心者を増やすには事後広報が重要!</p>	<p>答題アウトプット!</p> <p>一人1枚が良いです。今後、取組んでいきたいことや気を付けていきたいことを大きく書いてください!</p>

地域づくりのキーパーソンである市民センターを対象とした研修で、このような中枢のスキル部分での研修は数が少ないと聞いています。アンケートでは、実践向けの有意義な内容だったとのこと。家庭教育学級が保護者どうしの学び合いや地域教育の大切な、有意義な一歩になることを願います。

九州共立大学『共生社会を生きる』 ～災害から考える自然・地域との共生～



- 1 日時 令和3年6月10日(木) ①9:00～ ②10:45～ ともに90分
- 2 場所 九州共立大学
- 3 参加者 大学生161人



毎年、前期後期の2回、依頼をいただいているとても楽しみな講義です。『共生社会』という幅広いテーマですが、災害・環境・地域コミュニティという分野の担当です。

緊急事態宣言の発令中ということもあり、グループワークは無しとして、自分自身で考えて、周りの人と少し意見交換をするという構成にしました。5つの正解のない問いに対して、学生たちは自分の意見を熱心に記載していただき、とても目を見張るものばかりです。

①災害とハード対策、②まちとの向き合い、③地球温暖化と災害、④地域コミュニティ、⑤共生社会の一員へ。下に5つの問いのスライドを入れています。ぜひご考察ください！

<p>今日の流れ</p> <p>考えていただきます！ →記録して提出を。 ①災害とハード対策 ②まちとの向き合い ③地球温暖化と災害 ④地域コミュニティ ⑤共生社会の一員へ</p>	<p>災害対策としてのハード整備</p>	<p>考えよう！</p> <p>①ハード対策による災害を防ぐこともありますが、しかしながら、ハード対策だけでは限界もあり、防げない災害もあります。ではどのように対策すれば良いのでしょうか？</p> <p><u>周りの人と意見交換してください。それぞれの意見を記入してください。</u></p>	<p>読み書きが難しい先人たちがその土地のことを伝承してくれている</p> <p>↓</p> <p>地域を知る＝地名・地形を見る 歴史的・伝承がある</p> <p>↓</p> <p>その地域の特徴や文化に触れる その地域の過去に学び、礎を感じる</p>
<p>考えよう！</p> <p>② あなたの山岳の町名を書いてください。その町名が付けられた理由を考えてみてください。</p> <p>貴船 例：小倉北区貴船町→『貴船』 例：小倉南区南方五丁目→『南方』</p> <p><u>周りの人と意見交換してください。それぞれの意見を記入してください。</u></p>	<p>地球温暖化と災害</p> <p>地球の平均表面温度 実測：約 15℃ 計算上：約 18℃ なぜ33℃も違う！？</p> <p>温室効果ガス</p>	<p>考えよう！</p> <p>③ 災害を防ぐために、地球温暖化を防ぐことは重要。では、地球温暖化を防ぐために、皆さんの生活の中でできることは、どういったことでしょうか？</p> <p><u>周りの人と意見交換してください。それぞれの意見を記入してください。</u></p>	<p>地震：イメージトレーニング！</p> <p>Q: ある日の深夜・・・地震が発生！！ ワチは無事です。 隣の家で、物が倒れたような大きな音がしたような・・・？ どうしますか？</p>
<p>災害時には地域の力！</p> <p>「みんな無事か？」という共助が必要。</p> <p>安全を確認する地域コミュニティづくり ⇒安心を作る！</p>	<p>考えよう！</p> <p>④ 地域コミュニティの方は、災害発生時にはとても有用です。地域コミュニティに対してどのような関わり方が今後必要と見えますか？</p> <p><u>周りの人と意見交換してください。それぞれの意見を記入してください。</u></p>	<p>現在までを見つめ、未来を担っていく！！</p> <p>様々なものが、少しずつ変わってきたようにこれからも、未来が、少しずつ変わっていく！</p> <p>過去 現在 未来</p> <p><u>思うだけでも、未来づくりの一員です！！</u></p>	<p>考えよう！</p> <p>⑤ これからの社会をつくっていく一員として、どんな心がけや気持ちをもっていいのでしょうか？</p> <p><u>周りの人と意見交換してください。それぞれの意見を記入してください。</u></p>

私たちが過ごしている生活には、必ず自然との共生があります。自然の恵みを受けながらも、時に災害も起こります。そうした共生・共存・向き合いが必要だと感じます。特に、地球温暖化のテーマでは学生も熱心に考察してくれていた。最後は、一人ひとりが共生・参画している社会であるという話でした。

北九州ESD協議会からの受託事業 Green Gift～地球元気プログラム クイズで考えるSDGs



●Green Gift ～地球元気プログラム～ 【楽しく環境学習編】

特定非営利活動法人日本NPOセンターと東京海上日動火災保険株式会社がサポートし、子どもたちが環境について考える活動を促進していきます。環境首都検定について考えました。

<https://www.youtube.com/watch?v=2utrQW7w2a8>



●『クイズで考えるSDGs』【平和への取組み編】

戦争や大水害の記憶を、聞き書きの手法で記録していく「ともがき隊」の皆さんの活動で『未来への伝言』の作成や、慰霊祭の場面で、平和への想いをクイズ形式にしました。

<https://www.youtube.com/watch?v=CsFeEwQrpFw>



●『クイズで考えるSDGs』【障害者も一緒に共生社会編】

生き方のデザイン研究所の皆さんに、障害のある人もない人も、生き生きと自分らしく、暮らしやすい社会の実現に向け、インクルーシブデザインについて教えていただきました。

<https://www.youtube.com/watch?v=9qg6LvtVOss>



●『クイズで考えるSDGs』【地域活動・町内会編】

若松区の東28区自治会で、地域コミュニティでの課題や想いを教えていただきました。若い世代の方々が地域活動に参加してほしい意義とは何か？3択で考えてみましょう！

https://www.youtube.com/watch?v=_d6XCFTTrS9k



SDGsについては、理念・概念だけでなく、自分なりのことに実感することが大切だと思います。

『活動での最も深いこだわりは？』どれも正解のような3択クイズです！ぜひ一緒に考えましょう！！

九州共立大学『共生社会を生きる』 ～気候変動時代の災害・自然との共生～



- 1 日時 令和3年12月2日(木) ①9:00～ ②10:45～ ともに90分
- 2 場所 九州共立大学
- 3 参加者 大学生186人



近年の地球温暖化による『気候変動時代』において、私たちが何を考え、行動していくべきなのか、改めて考えてみました。気候変動により、災害をはじめとして、暮らしへの影響が危惧されます。災害への備えはもちろんのこと、それらに潜む課題や、環境問題そのものへの対策も急務です。これからの時代を創っていく、担っていく学生の皆さんと6項目の設問に分けて、ひとつずつ、ディスカッション形式の講座を実施しました。

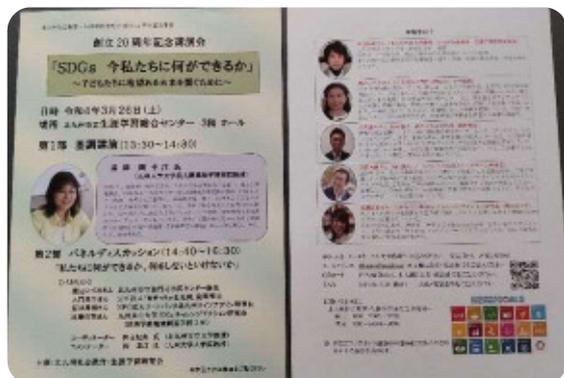
<p>インプットよりもアウトプット！！</p>	<p>地球温暖化と災害</p>	<p>アイスブレイク</p> <p>いのかど まるお 入門 真生</p> <p>Q: 自分の名前・・・どんな意味？</p> <p>真生 名前を記入グループ内で、自己紹介しあってください！</p>	<p>地名 や 地形 を確認する。</p> <p>先人達が後世に伝えてくれている</p>
<p>日本人の苗字</p> <p>漢字2文字に統一された歴史</p> <p>日本人の苗字の約8割は自然由来と言われています(他は武家由来、宗教的由来)</p> <p>皆さんの苗字の意味は？</p>	<p>読み書きが難しい先人たちがその土地のことを伝承してくれている</p> <p>↓</p> <p>地域を知る＝地名・地形を見る 歴史的・伝承がある</p> <p>↓</p> <p>その地域の特徴や文化に触れる その地域の過去に学び、礎を感じる</p>	<p>自然との共存・共生</p>	<p>②考えよう！話し合おう！</p> <p>地域・地形を知る、自然との共存・共生について</p> <p>先人たちは、暮らしのなかに自然との共存・共生を感じていたと思います。現代の私たちは、どのように感じ、考えていくと良いのでしょうか？</p>
<p>被災地住民が語る『災害発生の前日に戻れるとしたら？』『こ近所 と あいさつ がしたい』</p>	<p>④考えよう！話し合おう！</p> <p>地域コミュニティについて【③と④が反対です！】</p> <p>事前行動による防災や、災害対応において、住民同士のアリゲリはとて重要ですよ。希薄になりつつある地域コミュニティにおいて私たちは何ができるのでしょうか？</p>	<p>九州共立大の皆さんも活躍！</p>	<p>③考えよう！話し合おう！</p> <p>防災意識の向上について【③と④が反対です！】</p> <p>災害から身を守るには、日頃からそれぞれの『防災意識』が重要です。住民の防災意識を向上させていくにはどのようにすれば良いのでしょうか？</p>
<p>地球温暖化と災害</p>	<p>⑤考えよう！話し合おう！</p> <p>気候変動時代における環境対策について</p> <p>温室効果ガスの削減など、地球温暖化への対策は私たち次世代の暮らしを守るためにも喫緊の課題です。私たちの生活の中で、どのように意識し、どのようなことに取組むと良いのでしょうか？</p>	<p>まちづくり・社会参画 ⇒ 共生社会</p> <p>これからこんなまちになったら良いな。</p>	<p>⑥考えよう！話し合おう！</p> <p>これからの社会について</p> <p>これからの社会を創っていくのは、まされない皆さんです！一人ひとりが社会を構成する一員です。これから『どんな社会になったら良いな』と描けますか？イメージしてみてください。</p>

受講の学生が自由記載したアンケートを拝見させていただきました。①印象に残ったこと、②これから取組んでみたいこと、この2点のみの設問に対して、学生それぞれが自分なりの意見を書いてくださったのが、とても嬉しかったです。知識型の教育ではなく、学生それぞれが、自分の言葉で書き、これから自分なりの目線で生活していただくと良いなと思います。

北九州社会教育・生涯学習研究会 20周年記念講演会 パネルディスカッション



- 1 日時 令和4年3月26日（土）13時30分～16時30分
- 2 場所 北九州市生涯学習総合センター
- 3 参加者 75人



北九州の社会教育や生涯学習をリード牽引してきた社教研の20周年という節目のシンポジウムに、パネリストの一人として登壇させていただきました。

九大岡教授の基調講演では、改めて社会教育のことのみならずSDGsやこれからの社会づくりについてお話がありました。

後半ではパネルディスカッションにて、

- ・西門司市民センター 渡辺館長
 - ・フードバンク北九州ライフアゲイン 原田理事長
 - ・九州共立大学SDGsチャレンジアクション研究会 近藤さん
- とともに、それぞれの活動紹介や、活動への想いについてお話をいただきました。

会場の質疑も交えたディスカッションへと展開し、活動者の声を汲み取る聴く心構えや、みんなが思いやり自分から少しずつでも変革していく力がSDGsへと繋がっていくことなど、学びの多いものとなりました。



こだわりの点、想い
① 子ども達を真ん中にした地域づくり
② 『協働』
③ 外からの居、よそ者効果
④ 過去・現在を見つめ、未来を描いていく
⑤ “地域教育”

① 子ども達を真ん中にした地域づくり
地域みんなが一体となって！ 『地域愛』『子ども』は、地域の最大公約数

② 『協働』
みんなが主体的！喜びの輪が広がる！

『地域教育』について考える
地域の中で教え育む → 地域の中で教えられ育まれる
協働の育み・人が好き、文化が好き、まちが好き
自己愛の育み・感謝が好き、思いやり・思い立ちが好き
次のまちや人を育てる人へ

社会教育、SDGs、子ども、未来をテーマとしたシンポジウムであり、好きっちゃの活動とは共鳴する部分ばかりでした。子どもを真ん中にしたまちづくりや、協働によるまちづくり、『地域教育』にてまちや人を育てていきたいというお話をさせていただきました。節目の会に登壇させていただき、とても光栄でした。

内部研修会 「これまでの好きっちゃと、未来」

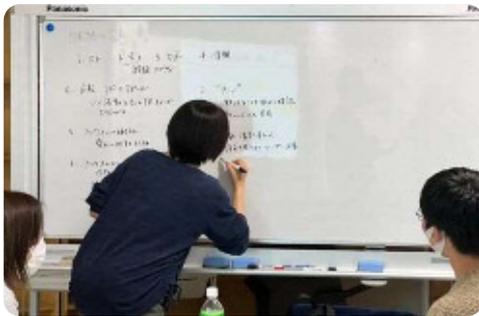


- 1 日時 令和3年11月27日(土) 15:00~17:00
- 2 場所 まなびとESDステーション
- 3 参加者 7人(好きっちゃメンバー)

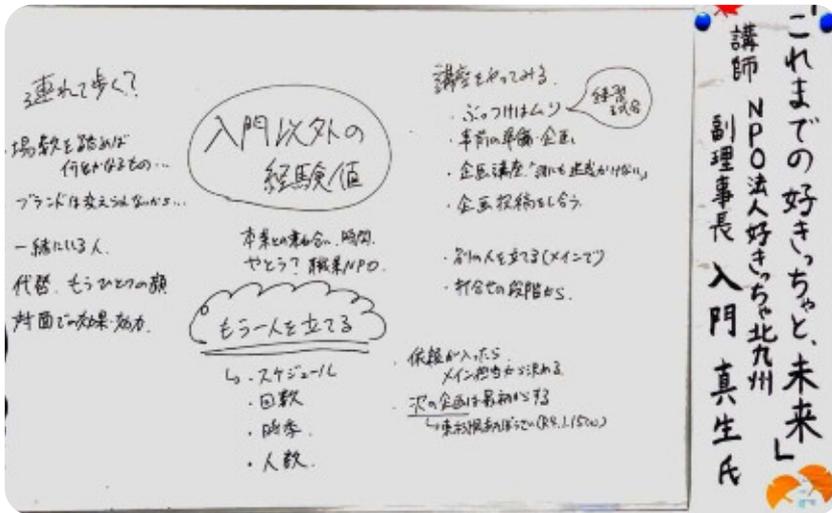
「好きっちゃ北九州」って何する団体？新しいメンバーもたくさん加わる中、今一度、自分たち自身が「好きっちゃ北九州」の目的やビジョンをしっかりと理解しておこう！ということで企画された今回の研修会。

「北九州に住む人たちが、もっとこの街に“誇り”を持ってほしい！そのためにはどうするか!？」

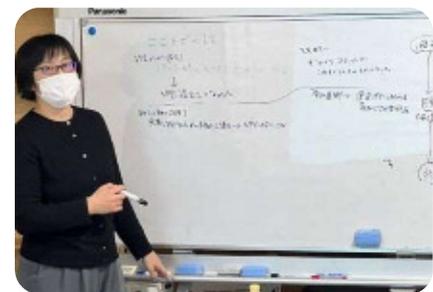
熱く語り始めたのは本日の講師、入門真生副理事長。



しかし、この研修は単に「好きっちゃ北九州」の歴史を学ぶものではありません。同じ目的やビジョンを持つ仲間として、あるいは様々な団体と協働するNPOの一員として、その姿勢やスキルも学びます。聞く姿勢＝「傾聴」の大切さ。ガードレール役の「ファシリテーション」のスキル、意見を可視化する「板書」のスキル。2チームに分かれたメンバーがそれぞれ役割を交代しながら、「好きっちゃ北九州」が今おかれている状況や課題、そして未来を話し合います。



両チームから提起された課題は、「好きっちゃ北九州」の機能が1人の「人」に集中しているのではないかということ。では、どうしようか。ホワイトボードを囲んで、全員で話し合った結論は「1人に集中する作業を分担しよう」というものでした。「あそぼうさい」のメイン担当も出来る人がやろう。経験を分かち合い、ひとり1人がスキルアップすることが未来を拓く鍵ではないか。さっそく取り組もう！まずは今日の報告書とFBを分担して書こう！さっそく手を挙げた仲間たち。未来に向けた小さな1歩を今、踏み出しました。



終了後のアンケートには「人」をコピーすることは出来ないのだから、自分のスキルアップが大切。作業を分担してフォローしよう。話し合うことが大切だし、それを聞く傾聴も大事。他の人にも伝えないと！という意見がありました。一方で、あまりにもペースが早いと、ついて行けなくなる人も出てくるかも・・・という不安も。「誰もが楽しく気軽に参加できる雰囲気」私もこれが理由で「好きっちゃ」に入りました。大切にしないといけない、もう1つの「心構え」も守っていただきたいですね！私たち仲間が、いつも・・・これからも「with 好きっちゃ」であるために！

災害での犠牲者を0に！ 枝光第二区 Bousai 会議が始まりました。



今年度、枝光第二区では、災害による犠牲者を出さないために、命を守る行動マニュアルとして、「地区防災計画」を作る全5回のBousai会議を始めました。11月22日(月)の第1回会議では、まち歩きチーム(A~I)ごとにそれぞれの町の防災・災害の課題を出しました。

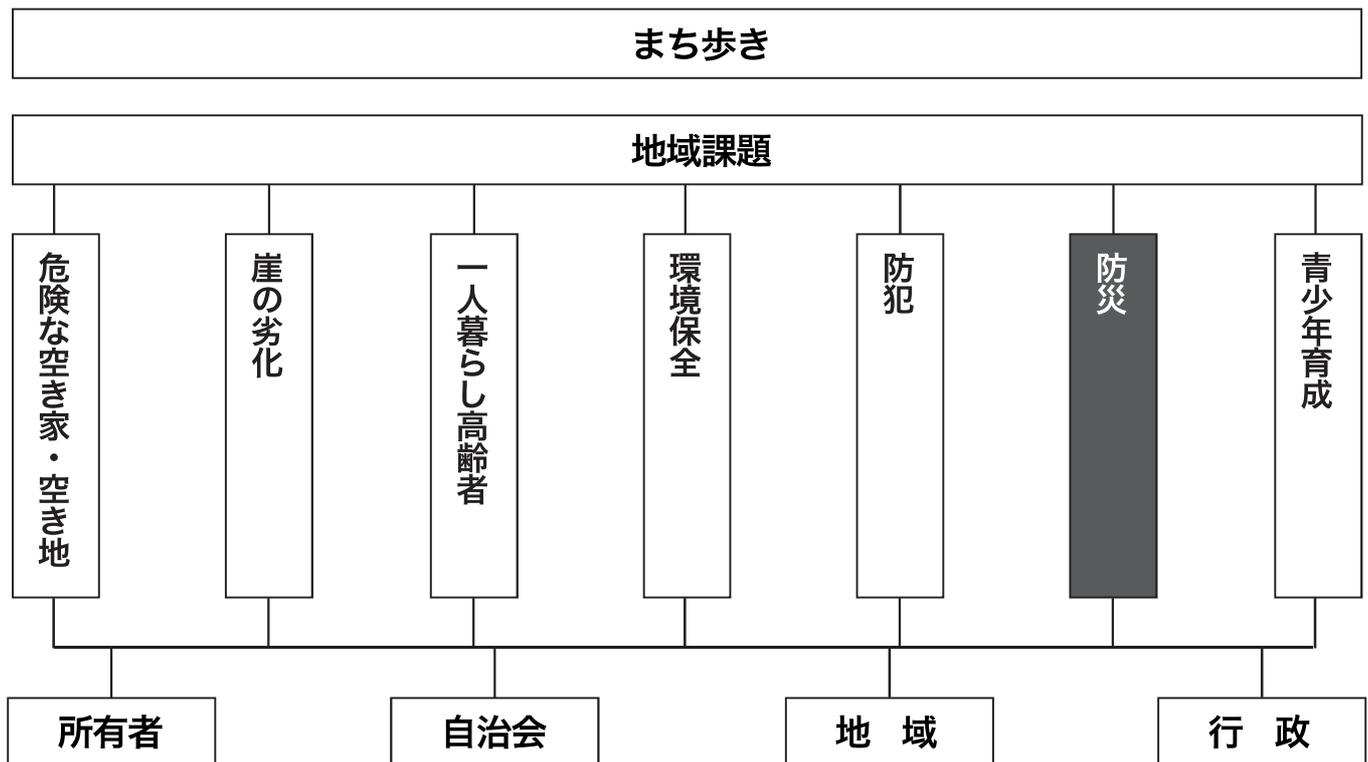
その後、各チームで今後の対策の一步目を検討し、Bousai会議の方向性を話し合いました。

第2回は年明け開催予定です。ぜひご参加ください！

◆ 防災はこれまでの「まち歩き」活動と連動して進める一つのテーマ

枝光第二区 目指す地域活動の狙い

- ① 地域内での問題・課題を解決するため、主体的に考え行動できるチーム作りを目指す。
- ② 課題抽出から現状把握を行い層別整理し、具体的な解決に向けた活動の定着を目指す。
- ③ 次世代の若い世代も一緒に、無理なく活動を推進していく体制の定着を目指す。



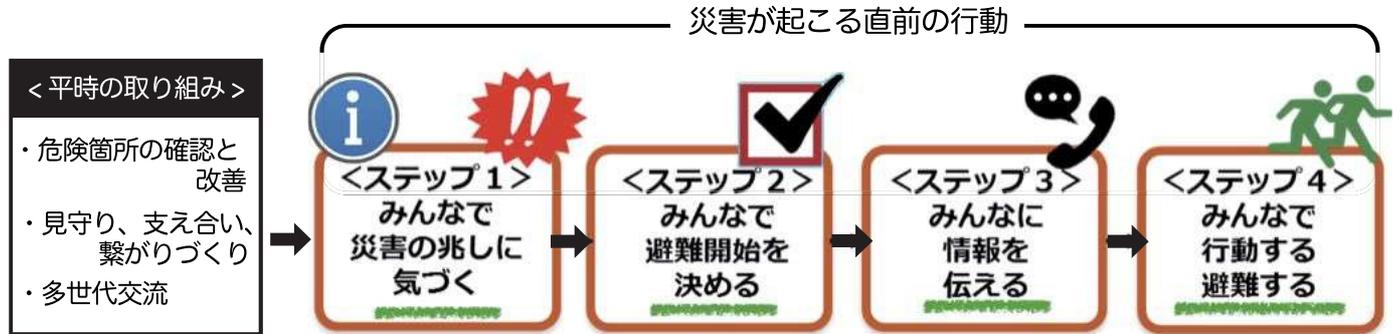
◆ 具体的にはどう対策を考えていくのか？

(コーディネーター)
NPO 法人好きっちゃん北九州
入門 真生さん



「4つのステップ」を考えていきます！

枝光第二区 Bousai 会議は、災害の犠牲者を出さないために、課題を「4つのステップ」に分け、その内容について皆さんで話し合いながら、対策を検討し、進めていくものです。



◆ 皆さんから上がった課題・ご意見

第2回以降の会議では「4つのステップ」をさらに具体的に検討していきます！

< 平時の取り組み >

- ・挨拶、コミュニケーションを取っていかねばならないと思う
- ・町内会での防災会議が必要と思う
- ・一人暮らしの高齢者の情報収集
- ・移動手段の確保
- ・避難所体験により避難のハードルを下げたい

<ステップ1>
みんなで
災害の兆しに
気づく

<ステップ4>
みんなで
行動する
避難する

「平時の取り組み」が今後の対策の一步目！?

B チーム (諏訪 1-1~4)
C チーム (諏訪 2-2・3、藤見町)
D チーム (諏訪 2-1、白川町 2・3)

<ステップ2>
みんなで
避難開始を
決める

- ・崖くずれ、私道・公道の問題
- ・空き家の情報
- ・町内会未加入の世帯が多い

「みんなで避難開始を決める」
が今後の対策の一步目！?

H チーム (日の出 2-3・5、3-4)

<ステップ3>
みんなに
情報を
伝える

- ・コミュニケーションの仕組みを整備することが大切
- ・災害時の安否確認の手段として各家で目印になるものを出したらいいと思う
- ・連絡網の確立
- ・まち歩きで危険箇所のハード面には取り組んでいるが、情報や連絡先の共有などソフト面は十分に組み立てていない
- ・組長を代表にして伝達しやすい組 (グループ) を作る
- ・ご近所の声かけ、住民同士の力で命を守る

「みんなに情報を伝える」が今後の対策の一步目！?

A チーム (枝光本町 1~3、白川町 1)
F チーム (日の出 1-3、日の出 2-1、4)
G チーム (日の出 2-2、大宮町)
I チーム (日の出 3-1~3)

<ステップ4>
みんなで
行動する
避難する

- ・高齢者の避難をどうするか
- ・避難ルート、避難手段の具体化
- ・町内会での防災会議が必要
- ・斜面の避難 (車が必要)
- ・避難のサポート
- ・火災、台風それぞれ

「みんなで行動する・避難する」
が今後の対策の一步目！?

E チーム (日の出 1-1、2)

【主催】 枝光まちづくり協議会・枝光第二自治区会
【問合せ・申込み】 枝光市民センター ☎093-661-1034

枝光第二区「地区防災計画」づくりが始まりました。

枝光第二区では、災害による犠牲者を出さないために、命を守る行動マニュアル「地区防災計画」を作成する「枝光第二区 Bousai 会議」を開催しています。

1月11日(火)の第2回会議では、枝光第二区全体の取組みの方向性について確認した後、各チームごとに「地区防災計画」づくりを具体的に進めていくための課題や今後の検討事項について話し合いました。



第3回は3月8日(火)19時半～@枝光市民センターです。ぜひ、気軽にご参加ください！

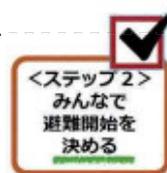
◆ 枝光第二区の防災の取組みの方向性とスケジュールについて

- ① 校区全体の取組みと、各地区での防災計画づくりの両輪で進める。
- ② 出水期(6月～)前に実施する「まち歩き」と秋の「防火祭り」を軸に活動を進める。

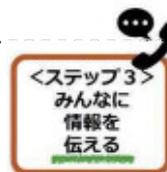
◆ 「地区防災計画とは？」 災害が発生する前の「命を守る4つのステップ」について、各チームごとに定めておくもの。下の枠内を埋められるように行動やルールについて話し合い、検討を進めていきます。



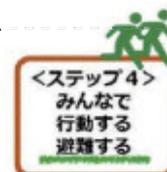
【危険な場所・状態・確認すべきところは？】 【災害の兆しの通報先は？ (情報の集め先)】



【避難(行動)や、情報伝達を始める基準は？】



【情報伝達の仕方は？】



【安全を確保できる場所は？】 【その場所への移動方法は？】 【サポートが必要な人への対応は？】

◆「4つのステップ」について具体的な話し合いを始めました

チームごとに検討し、まずはじめに取り組むステップを1つ以上決定！



- ・まち歩きなどで危険箇所は把握できているので、継続したい
- ・避難情報は確実にキャッチする
- ・町内会長の負担が大きすぎるのが課題…

【「ステップ1」から取り組みます！】
Bチーム（諏訪1-1~4）
Hチーム（日の出2-3・5、3-4）

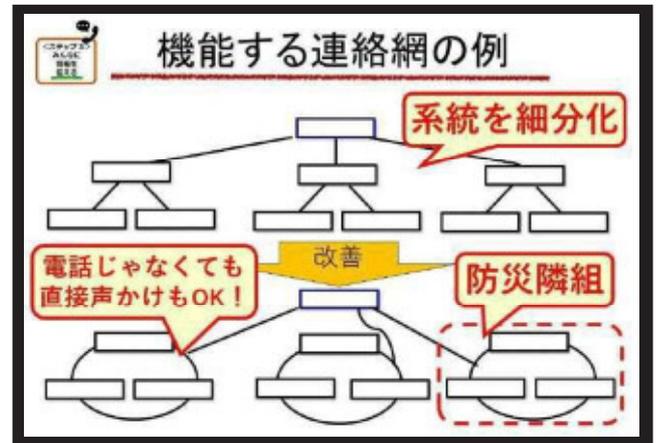


- ・レベル3（高齢者等避難）、4（避難指示）、5（緊急安全確保）は分かりやすい指標
- ・レベル3（高齢者等避難）のタイミングが良いだろう
- ・各種情報はみんな受信できているはず…と思う

【「ステップ2」から取り組みます！】
Bチーム（諏訪1-1~4）
Dチーム（諏訪2-1、白川町2・3）
Gチーム（日の出2-2、大宮町）



- ・連絡を取れる体制をつくりたい
- ・個人情報の“壁”がある…
- ・LINEを活用したい
- ・情報を伝えることが一番大事！
- ・町内で分担したい
- ・一人で避難できない人には確実に伝える
- ・相手に合わせた手段（LINE、電話、メール）
- ・町内ごとの連絡網の必要性、活用



【「ステップ3」から取り組みます！】
Aチーム（枝光本町1~3、白川町1）
Hチーム（日の出2-3・5、3-4） Fチーム（日の出1-3、日の出2-1・4）
Eチーム（日の出1-1~2） Iチーム（日の出3-1~3）



- ・サポートが必要な人だけでもまずは確認！
- ・移動しない方がいい（自宅避難を推奨）家が多い
- ・一人で避難できない人は、誰がサポートするかを町内で考える
- ・移動手段の検討（徒歩？車？リアカー？）

【「ステップ4」から取り組みます！】
Cチーム（諏訪2-2・3、藤見町）
※検討中

◆災害にも強い枝光第二区へ、少しずつでも前身していきましょう！

「4つのステップ」で検討した内容を、毎年のお祭り（まち歩きや防火祭り）に組み込むことで着実に、「災害にも強いまち」づくりを目指していきましょう。

「地縁」だけでは限界も…
3つの縁によるつながりや連携をつくりたいですね。



第3回会議では各地区の「防災計画」の具体化と6月のまち歩きやBousai訓練の内容について話し合います。

枝光第二区「地区防災計画」の検討状況を共有。

枝光第二区では、災害による犠牲者を出さないために、命を守る行動マニュアル「地区防災計画」を作成するために、「まち歩き」の各チーム（A～I）で検討を進めています。

3月8日（火）の第3回会議では、チームごとに、現在の検討状況を発表し、聞き合いました。6月に実施する「まち歩き」に防災の視点を加える前提で、その方法についての具体的な検討が始まりました。



第4回は5月10日（火）19時半～@ 枝光市民センターです。ぜひ、気軽にご参加ください！

【「まち歩き」のチーム編成】

Aチーム（枝光本町1～3、白川町1） Bチーム（諏訪1-1～4） Cチーム（諏訪2-2・3、藤見町）
Dチーム（諏訪2-1、白川町2～3） Eチーム（日の出1-1～2） Fチーム（日の出1-3、日の出2-1・4）
Gチーム（日の出2-2、大宮町） Hチーム（日の出2-3・5、3-4） Iチーム（日の出3-1～3）

◆ 検討状況の発表より



<ステップ1>
みんなで
災害の兆しに
気づく

D：どこが危険と感じているか？についてアンケートを実施した
E：飛散しそうなものはないか？（チェックポイント） / 防災委員を決められれば
F：台風のとかが心配なので台風を想定した備えが必要
G：空き家の情報を確認したい（チェックポイント）
H：一人暮らしの人の周辺を確認したい（チェックポイント）



<ステップ2>
みんなで
避難開始を
決める

E：暴風域に入ったら、警戒レベル3が発動されたら、を基準策定する方針で検討中
G：メディアの情報をもとに基準策定する方針で検討中
I：警戒レベル3、4、5が発動されたら、を基準策定する方針で検討中
★台風は進路や強さによって検討基準を検討する必要があるのでは？



<ステップ3>
みんなに
情報を
伝える

A：町内組織で連絡網をつくる
E：町内→組→家庭へと連絡を回す方針で検討中
F：崖の下にある家の人には声をかけている
G：連絡取れない世帯を確認する必要がある（by 民生委員） / 高齢者世帯への連絡 / 住民世帯票を活用
I：みんなに情報を伝える必要がある



<ステップ4>
みんなで
行動する
避難する

C：各世帯の考えを調査・検討したい
D：避難の考えについてアンケートを実施した
E：避難は市民センターに、移動手段については検討が必要
G：個人宅での避難、市民センターへの避難 / 窓ガラスに注意が必要 / 移動は車が必要 / 福祉施設や縁故者への連絡が必要
H：一人暮らしの人の確認が必要
I：個人ごとの避難計画の検討や確認が必要

◆「地区防災計画」とは？ 災害が発生する前の「命を守る4つのステップ」について、各チームごとに定めておくもの。下の枠内を埋められるように行動やルールについて話し合い、検討を進めていきます。

◆防災要素を加えた「まち歩き」の進め方について、情報共有を図りました。

【防災要素の加え方の例】

ステップ1
みんなで
災害の兆しに
気づく

- ・災害の起こりそうな危険箇所をチェックし、共有する
- ・一人暮らしの高齢者など連絡を取るべき人の確認する
- ・危険箇所を通報（知らせる）人の確認する

ステップ2
みんなで
避難開始を
決める

- ・『どこがどういう状況になったら』避難開始を決めるという現地確認する
- ・避難判定ルールの確認、共有する

ステップ3
みんなに
情報を
伝える

- ・連絡網などの確認や実践する
- ・連絡のつく人、つかない人を地図と現地で確認する

ステップ4
みんなで
行動する
避難する

- ・安全を確保する場所（避難所）へ実際に移動してみる
- ・サポートが必要な人を地図と現地で確認する



【コーディネーター】
NPO 法人好きっちゃん北九州
入門真生さん

事象 ・実際に起きていること
⇒主観が入る、発生後に気付く

情報 ・客観的で一律に理解できる
⇒事前に分かることもある
⇒空振りも多くなる

【台風の情報について】

「強い」「非常に強い」「猛烈な」台風は
要注意・特に西側を通る台風は危険。

【機能する連絡網の例】

【避難行動で変更が必要なこと】

場所：どこに？
移動：どうやって？
サポートが必要な人は？

3つの「ちえん」
血縁 地縁 知縁

大雨になりそうだから
「うちにおいでよ！」と言える関係づくり

ご近所の2階建ての家
ご近所のマンション
たとえば

◆災害にも強い枝光第二区へ、できることから少しずつ始めていきましょう。

次回5月10日(火)19時半～開催の第4回会議では、各チームの検討状況の共有と、防災要素を取り入れた「まち歩き」の進め方の具体的な方法について話し合います。

青葉市民センター『あそぼうさい』



- 1 日時 令和3年6月26日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 青葉市民センター
- 3 参加者 25人、参加学生20人



緊急事態宣言明けの最初のあそぼうさい！

- ・北九州市立大学防犯防災プロジェクトMATE's
 - ・九州共立大学SDGsチャレンジアクション研究会
- 20人の学生と一緒に企画し楽しみました！

昨年度まとめた「あそぼうさいプログラム」を確認して

もらいながら、各ブースを担当していただきました！

- ①ダイソーグッズかるた
- ②8割がた大丈夫だろうゲーム災
- ③災害ダーツ
- ④浮き輪に魔法むすび
- ⑤地震トイレトパー
- ⑥災害ぶたのしっぽ

特に、MATE'sの皆さんには、防災O×クイズを企画・実施していただき、子ども向けに楽しく、かつ学びの多いクイズになりました！

講座当初は堅かった子ども達でしたが、学生の優しく親しみやすい進行のおかげか、どんどん明るく活発に！学生の皆さんへの子供達へのエネルギーの大きさを実感しました。

終了後のミーティングでも初参加でも楽しく取組めたことや、次への改善の発言が多く、とても頼もしく感じました！



子ども達が楽しく防災を学ぶ「あそぼうさい」！まとめたプログラムをもとに学生の皆さんに進行していただき、とても大きな手応えに！！地域の異世代交流の促進であるこのプログラムを、多世代の実践者で実施できるように、今後とも連携を図っていきたくと思いました。

八枝市民センター『あそぼうさい』



- 1 日時 令和3年7月10日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 八枝市民センター
- 3 参加者 35人、参加学生21人



今回も多くの学生と一緒に、人気のプログラムと初めてのプログラムと混ぜて実施しました！

■実施内容「ブースプログラム」

- 災害ふたのしっぽ
- トランシーバーで伝達せよ
- 浮き輪に魔法結び
- 地図パズルでまちを見よう
- 災害グッズ
- 防災グッズ暗記パネル

■実施内容「全体進行プログラム」

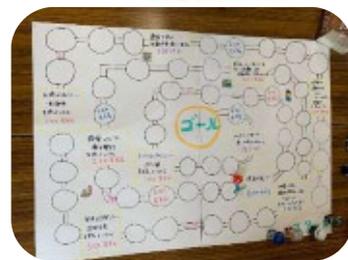
- ・防災〇×クイズ
 - ・河川水位を監視して！
- 特に、金山川が校区の中央を南北に流れるこのまち河川水位のシミュレーションや、地形を見つめるパズルを実施しました。

北九大MATE'sは『防災すごろく』を作ってきてくれました！すごろくでコマを進めながらも、時折防災関連の課題が！手持ちの防災アイテムでクリアしていく、ロールプレイゲームでした！

共立大学は、『自分なりの防災リュックを作ろう！』ということで、数あるグッズの中で、どれが役にたつのかグループで考えるという、子ども達が主体性をもつゲームでした！

両大学とも、斬新かつ面白い内容を考えてきていただき今後の発展がとても楽しみです！！

北九大びびきのキャンパスの3CLUBや、高校生の参加もあり、今後の展開がますます楽しみです！！



地域の皆さんも多く参加していただき、あそぼうさいが目指している「地域での異世代交流のツール」として、まさに体现できた講座となりました。河川水位のシミュレーションではお互いの声かけもあり、これから取り組むBousai会議では、このような声をかけ合える関係づくりを目指すものと思います。

徳力児童館『あそぼうさい』



- 1 日時 令和3年8月3日(火) 10:00~12:00
- 2 場所 徳力児童館
- 3 参加者 40人、参加学生6人



初めての児童館でのあそぼうさい！

学童保育の機能もあるこの施設で夏休みの思い出に！
特定非営利活動法人 KID's workとも初コラボです！
KID's workの大久保さんは、紫川の近くのこの校区の地形に合わせて、川の水の集まるメカニズムを実験装置を作ってきてくれました！

人数も多いので、屋外、1階、2階の3グループに分かれて順番に入れ替わるように進行了ました。

【屋外】大久保さんブース

水の流れを実感しよう！

【1階】動きの多い遊び

- ①台風ボーリング
- ②災害ぶたのしっぽ
- ③災害ダーツ

【2階】考える遊び

- ①緊急速報メールハンドベル
- ②地図パネル
- ③防災グッズ暗記ゲーム
- ④ならべて！災害情報パネル

ちょうど大学生達がテスト期間中で、就活が終わった好きっちゃんアカデミーメンバーの4年生たちが駆けつけてくれました！

さすがに子ども達の対応はとっても上手くて、あそぼうさい指導は初挑戦ながら楽しそうにしていました！今回は初めて九国大の学生も参加してくれました！やっぱり、子ども達の対応において、大学生の皆さんの人気っぷりは凄まじく、ともに楽しそうしている姿が印象的でした。

学童保育・児童館での実施は初めてでしたが、進行のメリハリをつけることや指導員の先生方と上手に協力することが重要だと認識できました。

良い夏休みの思い出になったかな？



平素からの学童保育の機能もある児童館ということもあり、先生方と子ども達の生活ルールがしっかりとされていて、無邪気に遊びつつも、けじめをつける場面もあり、子ども達の保育・教育の大切さを再認識しました。楽しく遊ぶためにはメリハリが重要ですね！

志井校区『あそぼうさい』

- 1 日時 令和3年10月2日（土）10：00～12：00
- 2 場所 志井市民センター（全館）
- 3 参加者 110人、参加学生12人



緊急事態宣言解除！市民センターの全部屋を使って、密を避けてのあそぼうさい！！

子ども達だけでなく、地域の皆さんも参加して、一緒に遊ぶだけでなく、スタッフとして入ってもらいました！各ブースでは、プログラムをもとに、好きっちゃんメンバーと学生と地域の方々でブースを運営しました。8箇所10個のゲームをスタンプラリー形式で自由に回っていくもので、次々と進んでいくのが、探険気分♪防災を地域づくりのテーマとして、ずっと取り組んできたこのまち、あそぼうさいで楽しく取り組みました！！



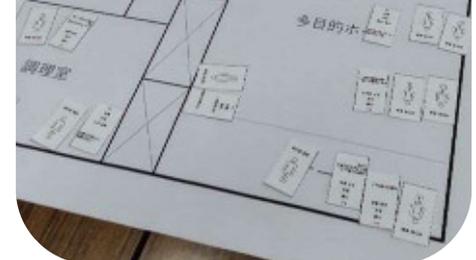
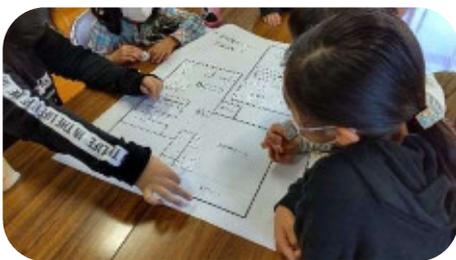
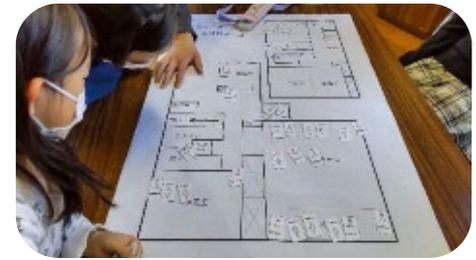
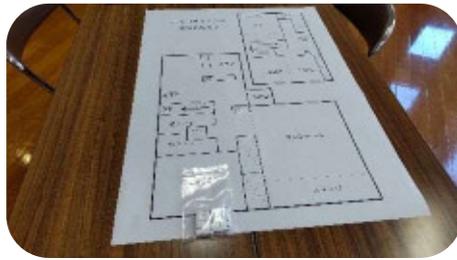
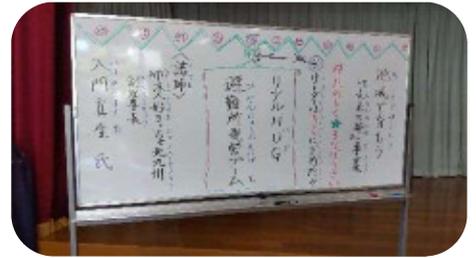
『あそぼうさい』は、防災という誰しにも共通する住民のテーマを基に、特に子ども達にターゲットを当てた、多世代交流のツールと考えています。まさに今回は地域の皆さまの大活躍により、防災で遊ぶという地域づくりの講座をすることができました。集合写真！すごい人数ですね！！

長尾市民センター『未来の種』事業 リアルHUG～避難者受入れゲーム



- 1 日時 令和3年11月13日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 長尾市民センター
- 3 参加者 子ども 17人、地域の皆さん7人、学生8人

昨年度のあそぼうさいに続き、防災活動について、地域全体で取り組んでいる小倉南区の長尾校区です。連続講座である『未来の種』事業として、KID' a workの大久保大助さんがコーディネートされています。そのうちの1コマで、HUG(避難所運営ゲーム)について依頼をいただきました。



今回目指したのは、リアルHUG。実際の市民センターの図面をいただき、避難者のカードと実際のサイズを合わせました。コロナ禍における避難者の受入れ人数などをリアルに感じることができました。

HUGは通常は「避難所運営ゲーム」なのですが、『避難者受入れゲーム』として、アレンジして作成し、どの順で、どんな人が避難所に来るのかは分からないというゲーム性を取り入れました。

後半は、北九大MATE'sの皆さんが、新聞紙スリッパとペーパーマスクの作り方を教えてくださいました！

初めての試みではありましたが、子ども達は、自分たちの普段利用している市民センターでの受入れにおいて想像を膨らませながら対応しているようでした。色んな気遣いや対策を話し合っている姿は頼もしかったです。また、地域の方々とも避難所対応を連携し検討している様子はとても素晴らしかったです。

長行市民センター『あそぼうさい』



- 1 日時 令和3年11月27日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 長行市民センター(全館)
- 3 参加者 32人、参加学生13人



市民センターの全部屋を使っただけのあそぼうさい！！
今回も好きっちゃアカデミーの若い力が大活躍！
共立大SDGsチャレンジアクション、北九大
MATE's、北九大3CLUB、九国大の他、高校生
も含め、大勢の学生と一緒に企画を楽しみました。
他大学の学生同士の交流もできるよう組み合わせ、
各ブースを担当してもらいました。

「みんなでバースデーカード」でコミュニケーションの大切さを実感した後は、4つのグループに分かれ、スタンプラリー形式で各ブースを自由に回ってもらいました。

遊びに夢中になっていても「河川水位」はしっかりチェック！トイレに残っている人がいないかと声かけしながら全員が2階に避難しました。

新プログラムの「市民センター探検隊」では、配られたヒントをもとに、館内にある防災関連用品に貼られた付箋を探します。

遊びを通して楽しみながら防災への気づきや視線を育むことができました。

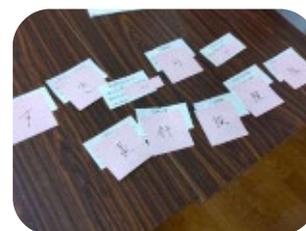


■実施内容「ブースプログラム」

- ①風の子レース 共立大生考案の新ゲーム！！
- ②災害ぶたのしっぽ
- ③8割がた大丈夫だろうゲーム
- ④ダイソーグッズかるた
- ⑤地図パネル
- ⑥浮き輪に魔法結び

■実施内容「全体進行プログラム」

- ・みんなでバースデーカード
- ・河川水位を監視して！
- ・市民センター探検隊



『あそぼうさい』は、子どもたちが遊びを通して防災への主体性を持てるようになることを目指しています。多世代交流のツールでもあるこの取り組みを、学生と協働で実施することにも大きな意義があると感じています。学生にも楽しんで参加してもらえよう、今後も連携を図っていきたいと思います。

東朽網あそぼうさい



- 1 日時 令和4年1月15日（土）10：00～12：00
- 2 場所 東朽網市民センター
- 3 参加者 20名（幼児2人、小学生8人、中学生2人、地域の方8人）

今回は北九州市立大学MATE'Sの皆さんとのコラボレーション。東朽網といえば、4年前に「ぼくのみち、わたしのまちを紹介します」で交流した地域。嬉しいことに、当時参加してくれた子ども達や、地域の方が訪ねて来てくださいました。前半はMATE'Sの皆さんが全て進行。アイスブレイクに始まり、〇×クイズ、暗記ゲームと続きます。会場の空気は完全に和んで、子ども達も楽しそう。



後半は好きっちゃんにバトンタッチ。実は今日の「あそぼうさい」は、センターの避難訓練を兼ねた構成になっていたのです。その名も「助け合いロールプレイング」。災害発生！大人達はセンターの各所に隠れ、「無事」や「負傷した」など、それぞれの役を持ちます。



子供：「あ！見つけた～！」

大人：「ケガして歩けないの、
3人で救助してほしい」

そう！負傷した人を助けるには1人では足りないのです。「無事な人2人来て～」と声を掛け合います。そしてホールに救出、集合して点呼。全員の無事を確認して任務完了です。

今日、楽しかった！子ども達は口々にしてくれました。「あそぼうさい」は脅しの防災から抜け出し、日常の生活の中で、地域のコミュニティを活性化していく狙いもあります。元気な子ども達と、地域の方々の明るくパワーあふれる行動力に支えられて、東朽網「あそぼうさい」は大成功で終わることが出来ました。



今回は企画から運営まで、好きっちゃんも大学生も新体制！新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、接触性が高いプログラムを急遽変更したり、直前まで思考を凝らした内容になりました。

うきはベース「大学生災害ボランティア」オンライン講座 『地域防災への支援』



- 1 日時 令和3年6月15日(火) 18:30~20:30
- 2 場所 ZOOMによるオンライン講義とディスカッション
- 3 参加者 うきはベース関係者6人、学生15人



九州北部豪雨から、NPO・大学・学生が連携し、被災地支援を行っている『うきはベース』です。コロナ禍でも定例の勉強会を継続しており、第10回目の講座にお声かけいただきました。災害ボランティアは時系列的には災害“後”の活動になります。今回のテーマは“事前”での地域防災。入門の公務とNPOの両者の目線や経験を織り交ぜて話を進めました。後半のディスカッションでは、学生参画の意義や効果について特に多く議論されました。

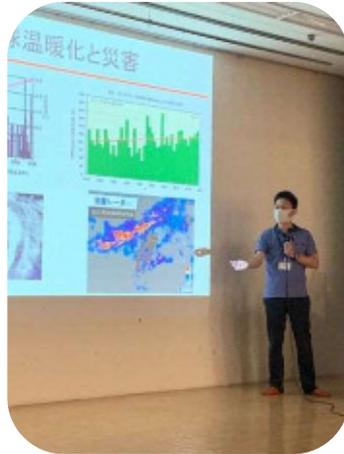
<p>今日の話題の方向性【おことわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公務とNPO活動の双方の経験でお話を ・災害ボランティアはあまり詳しくない… ・「大切にしてきたこと」を感じ取って… ・“地域”あってこそ防災 ・「災害対応」を『事前防災』へ 	<p>【公務】</p> <p>市民の生命・財産を守る 市民の安全・安心を より良い北九州市へ</p> <p>自分たちのまちを好きに より暮らしやすいまちに より良い北九州市へ</p> <p>目指すところ同じ!!!</p>	<p>公務(消防局・防災担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災(緊急事態発動) ・スカーム救命士のスタート ・北九州各地域防災計画の策定 ・みんなのRisk-Reductionづくり推進事業 ・北九州作區土建特化地域計画 ・防災参加型訓練の実施 ・企業による地域防災支援セミナール <p>技術ではなく“思い”の教育 命の教育、任意で全校実施 20年・30年先の市役づくり</p>	<p>公務(消防局・防災担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災(緊急事態発動) ・スカーム救命士のスタート ・北九州各地域防災計画の策定 ・みんなのRisk-Reductionづくり推進事業 ・北九州作區土建特化地域計画 ・防災参加型訓練の実施 ・企業による地域防災支援セミナール <p>「経験」に気づいて「変わる」 「経験」に気づいて「変わる」</p> <p>真の意義で『主体性』の防災体制の構築へ!</p>				
<p>NPO法人を創った理由</p> <p>公役所では、達成できない課題が多い 小さく多様になる公役所 【共】なる分野で、自分達でできることを 社会へのまほうへ!</p>	<p>NPO法人</p> <p>【地域×防災まちづくり】 必ず「地域」を確立する!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのRisk-Reduction推進事業 ・地域を豊かにする活動 ・防災参加型「あそび」祭り 	<p>NPO法人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのRisk-Reduction推進事業 ・地域を豊かにする活動 ・防災参加型「あそび」祭り 	<p>学生が参画する意義</p> <p>【若者・よそ者効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活気、活力 ○マンパワー ○新しい風 ○語りたくなる ○子ども達は嬉しい! <p>(なめなめの関係)</p>				
<p>活動分野の棲み分け</p> <table border="1"> <tr> <td>地域活動</td> <td>市民活動</td> </tr> <tr> <td>●一定のエリアで ●地域、自治など</td> <td>●所在したターゲット ●特定の目的・活動</td> </tr> </table> <p>防災でも、色々な活動があります。</p>	地域活動	市民活動	●一定のエリアで ●地域、自治など	●所在したターゲット ●特定の目的・活動	<p>防災の本質は「地域」 地域での防災まちづくりの種を!</p> <p>防災まちづくりの種</p> <p>多彩な花</p>	<p>災害ボランティアでの心がけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアである。(サービスではない) ・できないことがあって良い。無理はしない。 ・無駄なことを、できることをしよう。 ・代わりにするのではなく、支援する。 ・被災者の“こころ”を支援する。 	<p>私からのお話のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生死を分けるのは、事前行動、事前の準備・対策 ・防災は、それぞれの“感情”や“思い”が大切。 ・防災の本質は「地域」 ・災害ボランティアの皆さんには感謝・感謝… <p>平素、事前の“防災”へ 経験や思いを還元してほしい! 若い方ならではのエネルギーがあります!!</p>
地域活動	市民活動						
●一定のエリアで ●地域、自治など	●所在したターゲット ●特定の目的・活動						

NPOのフィールドである、官でも民でもなく「共」という存在。災害ボランティアもまさにこの領域で柔軟・迅速かつ被災者に寄り添った活動が展開できます。今回はそうした皆さんの経験や思いを、災害前にも活かしていただきたいという思いでお話しました。とても熱心な学生さんばかりで心打たれました。

午前10時のサロンあしはら 防災対策の強い味方、“気象の見方”を学ぶ

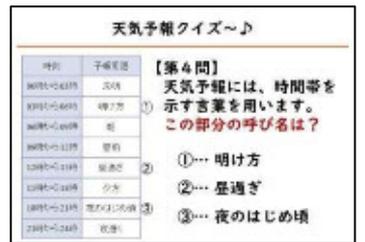
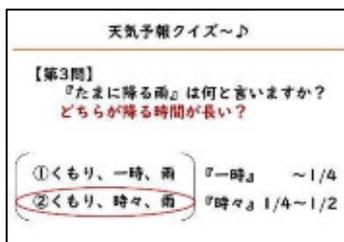
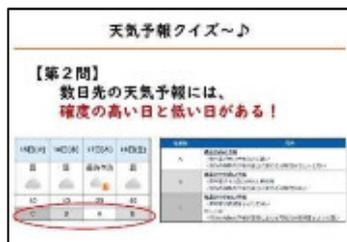
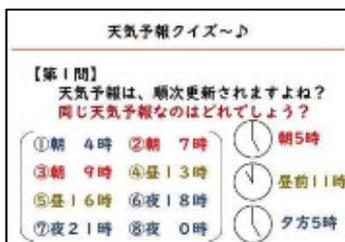
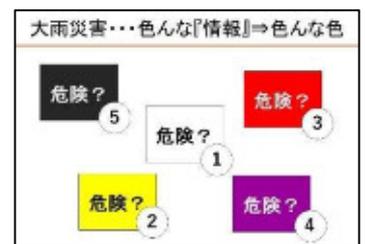
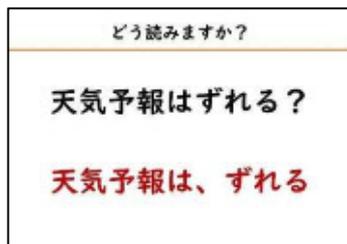


- 1 日時 令和3年6月24日(木) 10:00~12:00
- 2 場所 足原市民センター
- 3 参加者 32人



現在、絶賛勉強中の「気象」について踏み込んだ内容の講座をしてほしいとの依頼でした。サロンあしはらは緊急事態宣言が明け、今年度初の久しぶりの開催になりました。受講者どうしは距離を取りながら、講話中心のなかに、クイズや問いを混ぜながらの進行にしました。災害時などに、とても重要になる気象情報であったり、普段のお出かけや洗濯物など、生活に身近なものであるのが天気ですね。

「天気予報はずれる？」の読み方の問いから始まり、それぞれの読み解き方・感じ取り方、また特に災害時などはどうしても自分の良い方に考えてしまうことなど、順にゆっくりと確認していきました。専門的な知識ではなく、生活の中での知恵になるように進行を心掛けました。最後の天気クイズでは、楽しく悩みながら正解を考えていきました。専門的な講座ではありましたが、皆さんに身近なこととして感じていただけたと思います。



先人達の生活の知恵でもある“観望天気”のように、自然との共存・共生の大きな部分である気象。科学の進歩に追いつきつつも、空を眺めたり、また晴れやかな日も豪雨の日にも、その自然の中に生きていることに畏敬の念をもちつつ過ごしたいと感じました。

クイズで挑戦！富野防災チャレンジ！！ 富野小学校・富野中学校合同家庭教育学級



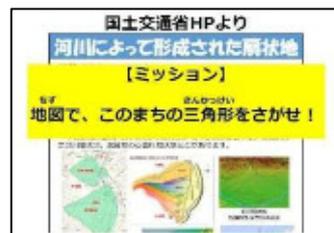
- 1 日時 令和3年7月31日（土）10：00～12：00
- 2 場所 富野市民センター
- 3 参加者 42人



家庭教育学級で、子ども達と保護者が一緒に参加する、クイズ形式を中心とした防災講座。
自分のまちを見つめていく問題が多く、子ども達も奮闘してくれました！！
このまちの地形や地名の問題からはじめ、地域にある神社の由来や特徴、祀られているものとその特性。
地域の内容に沿った問題と解答で、子ども達だけでなく、大人たちも実感が湧いていた様子が印象的でした。

新たな試みとして、半透明のシートを重ねて、地図を見るゲームを実施してみました。
土石流地帯特有の扇状地形になっており、三角の地形を地図から探しました。
また、立体的にズラした場所の写真を見せて、断層の位置も同じように確認しました。

もうひとつ、新ゲームで、災害情報を色で分けるパネルゲームも初めて実施してみました！



防災とは、そのまちでの特性があります。専門的なことと言うよりも、そのまちの地形や自然との共存のなかで、ともにあり、ともに暮らすものだと思います。子ども達もこうしたゲームからはじめ、自分のまちと向き合ってくれたら嬉しいなと思います。新たな試みでしたが、とても楽しかったです！

子どもの“危ないっ！”に備える ～事故の未然防止、緊急対応を学ぼう！～



- 1 日時 令和3年9月22日(水) 10:00～11:30
- 2 場所 小倉南区子育てふれあいルーム さざん
- 3 参加者 14人



毎年、何かしらのテーマで講座を実施させていただいている『さざん』
 今回は、乳幼児世帯を対象とした、事故の未然防止と、もし事故があったときの対処方法について。
 かけがえのない命ですから、事故があってはなりません。未然防止が何より重要です。
 4つの場面に分けて、それぞれの注意点をひとつずつ確認していきました。
 専門的な知識というよりも、それぞれの場面で目線や視点を大切にしてほしいという話題で展開しました。
 特に地域でのあいさつなど、子どもを取り囲む地域環境のなかでの安全対策としてのコミュニティを促して
 いくことをお伝えしました。アンケートでも『家の片付けや、近所の人にあいさつをするなど、できるところ
 から始めていこうと思いました』という意見もいただきました。

【1】急な病気やケガ	【2】家庭内での事故やケガ	【3】屋外での事故やケガ	【4】地域での事件・災害
①発熱 ②熱性けいれん ③鼻血 ④切創・打撲 ⑤肘内障	①誤飲 { たばこ おもちや 食べ物 } ②転倒 { 階段 イス } ③打撲 { 机の角 ドア } ④火傷 { 台所・電子レンジ お湯・熱いもの }	①車・自転車 { 飛び出し 死角 スポーツ } ②ボール { 飛び出しの要因 他への連絡 小学生など } ③遊具 { プランコ 高さ感覚 肘内障 } ④熱中症 { 日射 要り返し }	①水の流れ { 傾斜・斜面 側溝・水路 河川・土地の高さ } ②倒れそうな物 { ブロック塀 木 工事中的もの } ③誘拐・性犯罪 { 死角 知らない人 }
【1】急な病気やケガ アイスノンなど いつでも、すぐに 冷やせる準備を！	【2】家庭内での事故やケガ 家の中を いつも キレイに！	【3】屋外での事故やケガ 子どもの目線に なって見てみよう！	【4】地域での事件・災害 地域でも子は錠！ ご近所さんには あいさつを！

子どもの安全は、全ての親が望むテーマです。でも、なかなか語り合う場がないなかで、こうした講座は
 とっても有意義だと感じました。最初から慣れている親なんていませんよね。地域だったり、こうした場
 があったり、親としても、居場所や話す相手がいるということは素晴らしいと感じました。

令和3年度 男女共同参画フォーラム in 新門司地区 実は女性の方が災害対応力がある！？～男女共同参画の視点から～



- 1 日時 令和3年10月13日（水）13：30～15：00
- 2 場所 白野江市民センター
- 3 参加者 37人



北九州市の女性参画社会をリードしてきた女性団体連絡会議の主催であるフォーラム。ここ数年、門司区では「女性と防災」をテーマに講話などを実施してこられたとのこと。冒頭に門司区長がご挨拶され、閉会までご参加くださいました。

『実は女性の方が災害対応力がある！？』という随分と突っ込んだタイトルで実施しました。災害や防災は、どちらかというとなり男性色が強く、女性がマイノリティ的なイメージが多いと思います。しかしながら、災害が起こる前の事前の『防災』においては、特に女性の特性を活かせる場面が多いことを確認していきました。災害が心配される白野江の地域特性の確認をした後に、男女の性的特性や本能のような感覚でのクイズを出題し、それぞれに活かし合っていける力を実感しました。

<p>男女共同参画の視点から</p> <p>【男女平等】立場の平等、機会の均等 【ジェンダー規範】“自分らしい” 【人権】お互いの気持ちを理解と尊重 (マジョリティ、マイノリティ)</p>	<p>男女共同参画の視点から</p> <p>性差：差別と区別</p> <p>文化、人の心</p> <p>集団・社会のありようと個人</p>	<p>女性 or 男性 直感クイズ！</p> <p>(ファミレスの一角です)</p> <p>あのグループは デザート注文したきり、 ず～とおしゃべりしている</p> <p>女性グループ？男性グループ？</p>	<p>女性 or 男性 直感クイズ！</p> <p>(道端でパタリ会って)</p> <p>『あら、こんにちは～ 近頃はどうぞお過ごしですか？ お身体に変わりありませんか？』</p> <p>調子や近況で話題がはずぶのは？</p>

男女共同参画や男女平等においては、人権としての大切な考え方です。しかしながら、特に災害時や防災対策時には、無理に平等にしようせず、それぞれの特性を活かし合いながら、頼り合いながら乗り越えていけたらと思います。大切なことはそれぞれを尊重し合うということだと感じました。

令和3年度 男女共同参画フォーラム in 大里地区 どう守る 自分の命 ～男女共同参画の視点から～



- 1 日時 令和3年10月27日（水）10：00～11：30
- 2 場所 大里南市民センター
- 3 参加者 35人

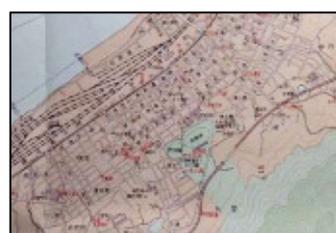


2週間前の白野江地区に続き、今回は大里地区。ちなみに門司港地区は門司区長が登壇されるそうです。前回と基本的には同じで、①防災や災害対策の考え方について、②大里の地域特性について、③男女共同参画の視点でのクイズという3段構成です。災害とは縁がなさそうな大里地区ですが、水が大地を削り、至る所にアップダウン、そして川があります。自然との共存・共生について改めて考えてみました。男女共同参画、男女平等の基礎をおさえつつも、男性らしさ、女性らしさについてクイズ形式で考えていきました。防災マイノリティのイメージの強い女性ですが、時間軸で考えてみると、防災の本質である事前の行動や、災害後の支え合い・助け合いにおいては、女性の方が得意な『コミュニケーション力』が重要であるという話を展開しました。

今日の話題
災害対策：防災の本質を考える

- 【1】災害と防災について
- 【2】地域特性を考える
- 【3】男女共同参画の視点から

被災地住民が語る
「災害発生の前日に戻れるとしたら？」
『**「近所」と「あいさつ」**がしたい』



川！

男女共同参画の視点から

男女共同参画の視点から

- 【男女平等】立場の平等、機会の均等
- 【ジェンダー規範】“自分らしい”
- 【人権】お互いの気持ちを理解と尊重 (マジョリティ、マイノリティ)

男女特性から考える活躍のタイミング

もうひと手間がんばろう！
ふせんに“ひとこと”記入してください！

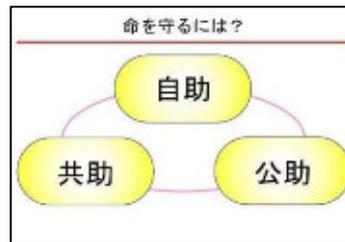
女性に頼りたいこと
女性が取組みたいこと

男性に頼りたいこと
男性が取組みたいこと

最後に、参加の皆さんに、女性として頑張りたいこと、男性に頑張ってもらいたいことを、それぞれの色のふせんにアウトプットしていただきました。講座の内容の展開を学んだ後に、これからの想いをしっかりと書き出していただきました。皆さんの想いの中に少し根付くことができたのなら良かったです。



- 1 日時 令和3年11月2日(火) 16:20~17:50
- 2 場所 福岡大学
- 3 参加者 福岡大学法学部 学生70人



R3.11.2 九州地方政策 (防災計画) NPO法人好きっちゃん北九州 理事 入門 貞生

【活動テーマ】

- 地域愛・_____の育み
- 地域愛×防災まちづくり
- 必ず_____を体験!

【地域住民の「共通の敵」】

- 地域づくりには_____が必要
- 【防災まちづくりの高度】
- _____の育み

大雨災害による犠牲者ゼロ! みんな de Bousai まちづくり

【防災との向き合い方】

- 知識ではなく_____の防災
- 【避難のあり方(例)】
- 「_____に_____」避難
- 【_____主体の防災】
- 自助・_____・公助
- 【防災まちづくりの取組み】
- 「_____」の作成

【大雨災害犠牲者ゼロ『_____』のステップ】

1. 地域愛を育みながら防災まちづくり
2. 地域愛を育みながら防災まちづくり
3. 地域愛を育みながら防災まちづくり
4. 地域愛を育みながら防災まちづくり

【防災啓発ネタ(例)】

- 防災グッズ暗記ゲーム
- 避難リュックの中身は?
- _____ボール投げ
- 災害ボール投げ「災害はどこに?」
- _____ボーリング
- 災害ダンス
- 防災ダンス「_____ヒーロー」

【災害対応ネタ(例)】

- _____で情報伝達
- 災害伝言ダイヤル「_____」
- 伝言ゲーム
- _____町方会の連絡網
- _____のしっぺ
- みんなで協力! パケツリレー
- 地区防災計画ロールプレイ

災害は_____にあること、防災を自分事と感じるために _____ながら『考える・感じる』 防災に、_____やすくなる

コロナ禍により、ゲスト講師の講義が制限されており、一年間の間が空いたものの、引き続き、福岡大学法学部の授業科目の一部の依頼をいただきました。防災政策を学ぶ科目ですが、行政機関からの活動紹介が多く、地域活動・市民活動の分野における防災活動の実践状況をお示しすることが目的です。

90分間全てを講義形式とし実施し、左の要点の資料を配布し、穴あきになっている項目を重点的に説明させていただきました。

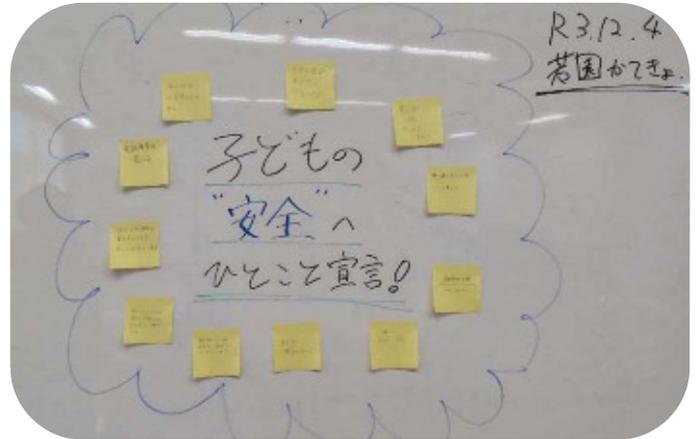
- ①地域愛やコミュニティづくりと防災まちづくりの関係
- ②住民主体・共助で命を守るまちづくり
- ③遊ぼう×防災『あそぼうさい』の紹介

防災まちづくりについては、知識ではなく姿勢が重要であること。命を守るには行政(公助)ではなく、自分達(共助)であり、自分達の力で実感しながら育てていくものとお話させていただきました。

【若園小学校家庭教育学級】 子どもの安全について考えよう～事故やケガの未然防止と応急対応～



- 1 日時 令和3年12月4日(土) 14:00～15:40
- 2 場所 若園市民センター
- 3 参加者 12人



コロナ禍でも、できる限りの家庭教育学級をする！ということで、子ども達の『安全』をテーマに講座依頼をいただきました。災害は防犯、ケガや事故など、子どもを取り巻く環境の中での、安全の確保は多岐に及びますが、絶対に大切なことです。

保護者どうし、これまでの体験や心配な点を話し合いながら、知識や経験を深めていきました。

その中でも、地域に目を向けることや、防犯上危険な箇所を感じることに、子ども達の帰る場所・安心できる場所としての『家庭』についても改めて考えてみました。

<p>今日の目的</p> <p>～子どもの安全～</p> <p>事故・ケガ・災害・犯罪 友人関係・トラブル・インターネット</p>	<p>話し合しましょう！</p> <p>これまでの子育ての中の事故、ケガ、犯罪など、子どもの安全を脅かすものやヒヤッとしたことを話してください。</p> <p>事故・ケガ・災害・犯罪 友人関係・トラブル・インターネット</p>	<p>話し合しましょう！</p> <p>ここまでの話をふまえ、「そう言えばこんなことがあった」や「これは気を付けたい」ということを話し合ってください。</p> <p>ケガ・病気・家庭や屋外での事故</p>	
		<p>地域での事件・犯罪</p> <p>地域でも『子は錢』 ご近所さんにはあいさつを！</p>	<p>「教育」とは</p> <p>子ども達の教育</p> <p>学校教育 家庭教育 地域教育</p>
<p>「地域教育」について考える</p> <p>地域の中で教え育む → 地域の中で教えられ育まれる</p> <p>郷土愛の育み・人の知恵、文化の知恵、まちの知恵 自己愛の育み・地域を知り、愛し、思い立ちの知恵 次のまちや人を育てる人へ</p>	<p>「地域教育」の意義</p> <p>「地域教育」は、子どもが地域社会の一員として成長するための重要な役割を果たす。地域社会のルールや規範を学ぶことで、子どもは社会生活に必要なスキルを身につけ、地域社会に貢献できる人間へと育てられる。</p>	<p>有難のセリフ「お事に帰ってきてね」</p>	<p>話し合しましょう！</p> <p>今日の話をふまえ、子どもを取り囲む環境のなかで「安全」を確保するには？感じた事などを話しましょう。</p> <p>事故・ケガ・災害・犯罪 友人関係・トラブル・インターネット</p>

子ども達の安全というのは、全ての親が思っている、かけがえのなく、尊いものだと思います。安全を想い様々な配慮をしていくことは重要です。そして、子ども達が色々な環境のなかでも、帰る家があることを大切に、毎日無事に帰ってこれることを大切にしなければならぬと感じました。

【葛原小学校 家庭教育学級】 親子で考える防災クイズ（動画配信）

- 1 日時 令和4年2月24日（木）オンライン撮影
- 2 場所 ZOOMにて撮影
- 3 動画 https://www.youtube.com/watch?v=nN28qINX_8Q&t=10s



コロナ禍でも、オンラインの手法を取り入れ、積極的に学びの場を継続する葛原小学校区です。保護者が主体的・積極的に準備し、オンラインでの撮影をした動画を配信する形式で講座が実現しました。葛原校区は、地域住民による防災まちづくりも積極的に進められており、地域と学校や保護者が連動・連携した取り組みとなっています。今回の講座では、子どもと保護者が一緒に視聴できる内容にて実施してほしいとのテーマ設定でした。30分弱の短い内容にするとともに、クイズ形式を取入れ、参加しやすい内容としました。

<p>今日の学級目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害・防災って何だろう？ ・自分たちのまちでの防災 	<p>災害は起こるの？</p> <p>災害は…いつか必ず起きます</p> <p>災害を防ぐこと ⇒ 防災</p>		
<p>被災地住民が語る「災害発生の前日に戻れるとしたら？」『ご近所とあいさつがしたい』</p>	<p>信号</p>	<p>災害の確率</p>	<p>色んな「情報」⇒色んな色</p>
<p>災害の確率</p> <p>降水確率 30%</p> <p>どう思う？</p>	<p>災害の確率</p>	<p>防災は「心」の問題</p> <p>Q：災害が起きました。10人いますが、パンは5人分しかありません。どうしますか？</p>	<p>防災は「心」の問題</p> <p>Q：避難所にきました。わたしは食糧物をもっていません。隣りの人たちは何もありません。どうしますか？</p>
<p>防災は「心」の問題</p> <p>Q：地震がおきました。大きな箱が崩れお母さんが下敷きになりました。火事になってますが助けられません。どうしますか？</p>	<p>防災は「心」の問題</p> <p>Q：突然、屋から体校になりました。大雨が降るかもしれないそうです。家に帰ったら、土砂災害発生！電話も通じません。どうしますか？</p>	<p>防災は「心」の問題</p> <p>Q：（どんな場面でも良いです）『あの人のこと助けてあげたいな』どうしますか？</p>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配な人ほど命を守る ・防災は「心」の問題 ・助け合いの気持ち ・助けて！気持ちを大切に ・自分達のまちは自分達で守る！

防災においては、知識供与型の学習とせず、地域のコミュニティや、感情や感性を大切に『心の防災』を大切にしてほしいという内容としました。

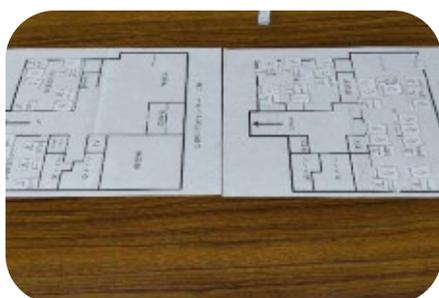
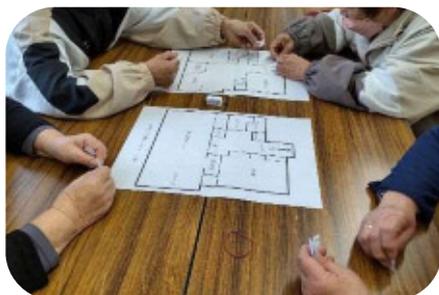
『リアルなカードゲームで考える』 ～早めの避難と、思いやり・助け合い～



- 1 日時 令和4年3月19日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 白野江市民センター
- 3 参加者 24人

白野江まちづくり協議会の主催で「リアルHUG（避難者受入れゲーム）」を実施しました。

リアルHUGは、通常防災訓練で行われるHUG（避難所運営ゲーム）をアレンジしたものです。実際に避難先となる白野江市民センターの図面を使って行い、避難者もいつのタイミングで誰が訪れるかわからないというゲーム性を持たせることで、避難者受入れをよりリアルに感じられるものになっています。

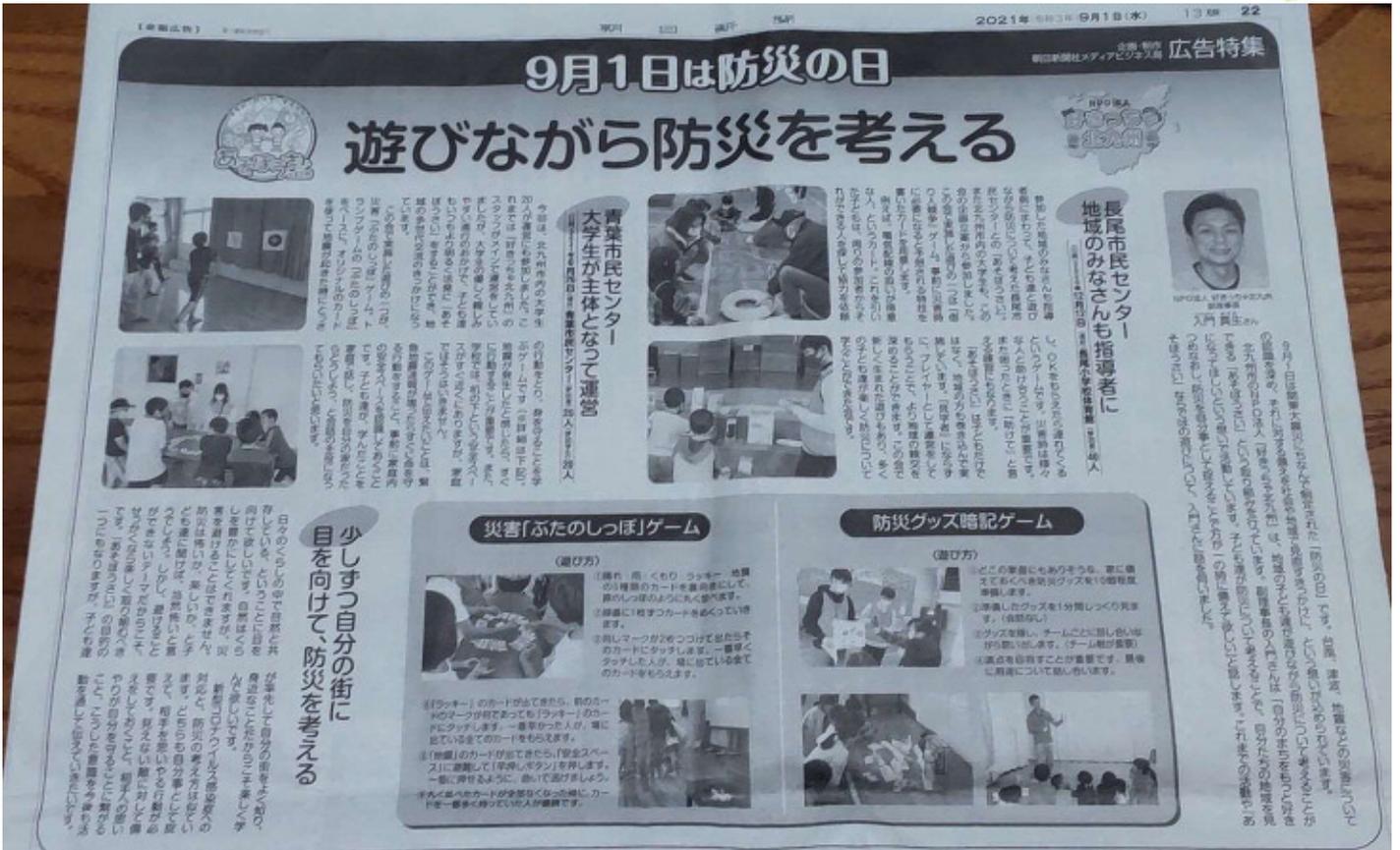


参加者は町内会長、民生委員、消防団やパトロール隊など、日頃から地域のことをよく見ている方たちが多かったこともあり、それぞれの目線で、思いやりや配慮の気持ちを持ちながら柔軟に避難者の受入れを考えられている様子が素晴らしく、さすがだなと感じました。

リアルHUG体験後には、実際に受入れる部屋を見たり、避難物資の置き場所等を確認したりすることで、「湯沸室がペットの受入れに使える」「受入れのルールを決めないとケンカになる」「男手や若い人の力がないと難しい」「各部屋にお世話できる人を配置した方がいい」等、様々な意見や提案が出ていて、自分たちのまちの避難所のことを市民センター任せにせず、みんなで考えていくことができました。

専門的な防災の知識というわけではなく、「一緒に考えましょう！」というテーマ設定で、それぞれが考え、話し合うことで気づきを深めていく「まちづくり」の講座となりました。今後も、課題や着目点の提示を意識して、「視線を育む」ことのできる取り組みをしていけるよう、心がけていきたいです。

各メディアでの掲載・出演



令和3年9月1日【朝日新聞】



令和3年7月29日【朝日新聞】



令和4年3月9日【西日本新聞】



令和3年10月4日【毎日新聞】

各種メディアに取り上げて
いただいたことで、多くの
反響をいただきました。
こうして活動をPRしていただ
き、共感の輪が広がって
いくと良いですね！



令和4年3月10日【J-com『LIVEニュース』】